2025年度
アーバンデザイン科目
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2025/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【A3482】文化地理学（１）［吉野　裕］春学期授業/Spring 1
【A3483】文化地理学（２）［川添　航］秋学期授業/Fall 2
経営学科専門科目300番台【A4363】経営組織論Ⅰ［長岡　健］春学期授業/Spring 3
経営学科専門科目300番台【A4364】経営組織論Ⅱ［長岡　健］秋学期授業/Fall 5
【A6066】UK: Society and People［Brian Sayers］春学期授業/Spring 7
建築学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) 8
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) 9
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) . 10
建築学科_専門科目_展開科目【B3011】建築フォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall 11
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3580】サステナブルデザイン［中野　淳太］秋学期後半/Fall(2nd half) 13
建築学科_専門科目_基礎科目【B3580】サステイナブルデザイン［中野　淳太］秋学期後半/Fall(2nd half) 14
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3580】サステイナブルデザイン［中野　淳太］秋学期後半/Fall(2nd half) 15
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3580】サステイナブルデザイン［中野　淳太］秋学期後半/Fall(2nd half) 16
【B3580】サステナブルデザイン［中野　淳太］秋学期後半/Fall(2nd half) 17
建築学科_専門科目_基礎科目【B3580】サステナブルデザイン［中野　淳太］秋学期後半/Fall(2nd half) 18
【B3581】デザインフォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall 19
【B3581】デザインフォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall 21
【B3581】デザインフォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall 23
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3712】街づくりとデザイン［渡邉　竜一］秋学期前半/Fall(1st half) 25
【C0625】フランス語アプリケーション［ル ルー 清野　ブレンダン］春学期授業/Spring 26
【C0626】フランス語アプリケーション［ル ルー 清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall 27
【C0627】フランス語アプリケーション［カレンス　フィリップ］春学期授業/Spring 28
【C0628】フランス語アプリケーション［ル ルー 清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall 29
【C0910】中国の文化Ⅰ（現代中国社会）［張　勝蘭］春学期授業/Spring 30
【C0920】朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）［神谷　丹路］春学期授業/Spring 32
【C0932】ロシア・東欧の文化［佐藤　千登勢］春学期授業/Spring 33
【C0942】フランス語圏の文化Ⅰ（思想）［大中　一彌］秋学期授業/Fall 35
【C0943】フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）［岡村　民夫］春学期授業/Spring 38
【C0947】北米文化論（ケベック講座）［廣松　勲］秋学期授業/Fall 39
【C1046】地域協力・統合［大中　一彌］秋学期授業/Fall 40
【C2227】災害政策論［中川　和之］春学期授業/Spring 42
【C2310】環境倫理学Ⅰ［竹中　真也］秋学期授業/Fall 45
【C2322】環境表象論Ⅰ［梶　裕史］春学期授業/Spring 46
【C2323】環境表象論Ⅱ［梶　裕史］秋学期授業/Fall 48
【C2416】環境科学Ⅰ［藤倉　良］春学期授業/Spring 50
【C2417】環境科学Ⅱ［藤倉　良］秋学期授業/Fall 51
【C2418】環境科学Ⅲ［藤倉　良］春学期授業/Spring 52
【C2500】環境管理論Ⅰ［大野　香代］春学期授業/Spring 53

【C2501】環境管理論Ⅱ［大野　香代］春学期授業/Spring 55
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5085】コミュニティ社会論Ⅰ［青木　淳弘］春学期授業/Spring 57
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5115】コミュニティ社会論Ⅱ［青木　淳弘］秋学期授業/Fall 58
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5062】音響工学［御法川　学］春学期授業/Spring 59
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5091】環境工学［西井　啓典］春学期授業/Spring 61

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

文化地理学（１）

吉野　裕

授業コード：A3482　｜　曜日・時限：**火 1/Tue.1**
春学期授業/Spring・２単位　｜　配当年次：**2〜4年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は地理学分野のひとつである「文化地理学」をテーマにしています。文化地理学の研究対象は、たとえば、都市や集落の景観、言語、宗教、衣食住、社会集団、世界観（人々の空間のとらえ方）など非常に多様です。この授業では文化地理学の学問上の位置づけや、これがどのようなテーマで研究されてきたか、研究史にもふれながら紹介していきます。その際に、文化地理学の研究がいかなる方法・資料を用いて行われてきたかについても具体的に説明します。みなさんはこの科目を履修することにより、文化地理学の研究上の視野が極めて広く、なおかつ、その研究手法が非常に多様であることを深く理解するでしょう。

【到達目標】
①文化地理学の学問上の位置づけとその研究史について説明できる。
②文化地理学の視点でなされた研究の特徴、ならびに、その研究方法について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・授業形態：講義。
・毎回、リアクションペーパー（成績評価に使用します）に授業に関する質問・意見を記載し、これを提出していただきます。
　※質問・意見に関するフィードバックを次の授業で行います。
・毎回、資料を配付します。インターネットを通じての配布・配信はいたしませんのでご注意下さい（欠席された場合は、翌週、お声がけ下さい）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講上の注意事項と文化地理学の学問上の位置づけを確認しよう
第2回	文化地理学の歴史①	環境論とは何か？
第3回	文化地理学の歴史②	多様化する研究の視点
第4回	文化地理学の研究とその方法とは？	海外でのフィールドワークの紹介
第5回	「地域のとらえ方」について学ぼう①	等質地域と機能地域から地域構造を把握しよう
第6回	「地域のとらえ方」について学ぼう②	「農作物の世界的な旅」から分布が形成される仕組みを把握しよう
第7回	「地域のとらえ方」について学ぼう③	メンタルマップ・知覚と行動
第8回	「地域のとらえ方」について学ぼう④	好きな空間と嫌いな空間
第9回	文化地理学の研究の紹介①	言語
第10回	文化地理学の研究の紹介②	風土に根ざした生業・生活文化
第11回	文化地理学の研究の紹介③	宗教と人口
第12回	文化地理学の研究の紹介④	民俗
第13回	文化地理学の研究の紹介⑤	ジェンダー
第14回	試験・総括	試験の実施と授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①授業で学修した専門用語の定義を地理学の事典などで調べる。
②授業内容に関する図書などを探し、これらを読んで知識を獲得する。
毎回、授業の前後に上記①・②の準備学習・復習を行って下さい（合計4時間を毎回の標準とします）。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
・森　正人・中川　正『文化地理学ガイダンス　改訂版』ナカニシヤ出版、2022年（第1版）。
・高橋伸夫・田林　明・小野寺　淳・中川　正『文化地理学入門』東洋書林、1995年（第1版）。
・千葉徳爾『文化地理入門』大明堂、1991年（第2版）。

【成績評価の方法と基準】
①授業内テスト:第14回の授業時に試験を実施します(70%)。
②授業参画度:毎回、リアクションペーパーに授業に関する質問・意見などを記載して提出していただきます。その内容をもとに授業の理解度を評価します(30%)。
上記の①・②をもとに、成績を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーに記載いただいたご質問・ご意見をふまえて授業を進めて参ります。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
①非常勤講師につき、オフィスアワーの設定はありません。授業の前後に質問や書類へのサイン・受け取りなどに対応しますので、お声がけ下さい。
②やむを得ない事情で授業形式を変更したり、休講したりする場合、大学LMSの「文化地理学（１）」のページを通じてお知らせいたします。重要な情報を見逃さないようにご確認下さい。

【Outline (in English)】
· Course outline: The objective of this course is to understand the methods of study on cultural geography, and to obtain wide knowledge of it.
· Grading Criteria /Policy: By the end of this semester, students will be able to explain the methods of study on cultural geography, and regional characteristics originated in nature, culture, economy, population, and so on.
· Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant books and dictionaries. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
· Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, reaction papers: 30%

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

文化地理学（２）

川添　航

授業コード：A3483　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化地理学の対象と手法をさまざまなトピックから学ぶ．受講生が文化地理学を身近なものに結び付けて考察できるようになることを目的とする．

【到達目標】
文化地理学のさまざまな知識や概念，方法を学び，文化地理学の深層を理解できるようになることが目標である．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
文化地理学に関連する教科書をもとに，文化地理学のさまざまなトピックを学ぶ．授業末にコメントシートの作成を指示することがあるため，必要に応じて作成・提出すること（次回以降の授業時にフィードバックを行うことがある）．高等学校等で使用していた地図帳を持参することがのぞましい．あわせて，授業ノートを準備すること．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：地理学における「文化」	文化地理学とは？
第2回	文化地理学の展開①：環境と景観	環境決定論と環境可能論
第3回	文化地理学の展開②：自然環境の変化と人間活動	自然環境の変化と人間活動の影響
第4回	文化地理学の展開③：文化と地域	「地域」という考え方と人間活動
第5回	文化地理学の展開④：人間の知覚とメンタルマップ	メンタルマップが示すもの
第6回	文化地理学の展開⑤：文化と都市・農村関係	都市と農村における文化とその結びつき
第7回	文化地理学の展開⑥：文化の政治学（ポリティクス）	政治と環境・地域・景観
第8回	文化地理学の展開⑦：文化地理学の調査手法	文化地理学に関連する地域調査の方法
第9回	都市の文化地理：都市構造の転換と祭礼	都市と環境・地域・景観
第10回	ものづくりの文化地理：伝統的工芸品の流通と消費	伝統工芸と環境・地域・景観
第11回	観光の文化地理①：観光と環境・地域・景観	観光と環境・地域・景観
第12回	観光の文化地理②：観光資源としての文化	観光資源の創出と環境・地域・景観
第13回	宗教の文化地理①：宗教と環境・地域・景観	宗教現象と環境・地域・景観
第14回	宗教の文化地理②：現代社会と宗教の変化	現代社会と宗教との結びつき

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストとともに各回授業では参考文献を提示するので，そこに示された著書や論文に目を通したうえで準備学習・復習等に臨んでほしい．また，受講時に作成したノートや授業動画を見直し，講義の内容について復習すること．本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない．参考文献については授業内で適宜指示する．

【参考書】
森　正人・中川　正(2022)：『文化地理学ガイダンス［改訂版]』（ナカニシヤ出版）￥2,400
中俣均編(2011)：『空間の文化地理』(朝倉書店)￥4,180
竹中克行・大城直樹・梶田　真・山村亜希編（2009）:『人文地理学』（ミネルヴァ書房）￥3,000
高橋伸夫・田林　明・小野寺　淳・中川　正（1995）:『文化地理学入門』（東洋書林）￥2,500

【成績評価の方法と基準】
平常点（コメントシートなどの内容，参加態度で評価）（20%），期末レポート（80%）で成績評価を行う．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
可能な限り文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい．授業の進み具合や受講者数により授業計画を変更する可能性があります．

【Outline (in English)】
This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need 2hours. Final grade will be decided based on the exam and class participations. Grading will be based on regular points (based on the contents of comment sheets, etc., and participation attitude) (20%), and the final report (80%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

経営組織論Ⅰ

長岡　健

経営学科専門科目300番台経営学科専門科目　3～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈優〉〈Ｓ〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないでしょうか。
この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】
（１）多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。
（２）経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。
（３）組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
春学期の授業（経営組織論Ⅰ）では、「組織と個人の創造的関係」という視点から、関連する概念や理論をもとに、振る舞いの背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①個人の振る舞い、②キャリア開発、③集団の振る舞い、④組織と個人の関係、という４つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、２週を１モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行いますが、受講者が主体的に考え、発言する機会（旧twitterを使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	個人の振る舞い①	仕事の中での「学習と成長」に関する基礎概念
第3回	個人の振る舞い②	組織における「モチベーション」に関する基礎概念
第4回	事例研究①	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第5回	キャリア開発①	組織における「キャリア・デザイン」の基礎概念
第6回	キャリア開発②	組織における「専門職」の意味／意義／位置づけ
第7回	事例研究②	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第8回	集団の振る舞い①	経営学における「グループ」の意味／意義／位置づけ
第9回	集団の振る舞い②	組織における「創造的コラボレーション」の可能性と課題
第10回	事例研究③	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第11回	組織と個人の関係①	組織における「対話的コミュニケーション」の可能性と課題
第12回	組織と個人の関係②	組織における「リーダーシップ」の基礎概念
第13回	事例研究④	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第14回	ラップアップ	春学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（１）各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書（１）『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。
（２）テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。
（３）各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計４回)。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中４０％)。
（４）本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】
以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この３冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。
（１）金井壽宏『経営組織』（日経文庫） 日本経済新聞社
（２）ロビンス，Ｓ．Ｐ.『組織行動のマネジメント』 ダイヤモンド社
（３）グロービス経営大学院『グロービスMBA組織と人材マネジメント』 ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
（１）最終レポート（１回）：４０％
（２）振り返りレポート（４回）：４０％
（３）ゲスト講義へのコメント（４回）：２０％

【学生の意見等からの気づき】
今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
（１）zoomを使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください)。
（２）受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、旧twitter（X）を活用する予定です。受講者は旧twitter（X)のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
（３）上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】
（１）オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。
（２）『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】
（１）プロフィール
http://www.tnlab.net/profile.html
（２）ゼミ活動
http://www.tnlab.net/seminar/
（３）FACEBOOK
https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9
（４）X（旧twitter）
https://twitter.com/TakeruNagaoka

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.
In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]
The objectives of this course are :
(1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and

(2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]
The learners in this class are expected to to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]
Grading is decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

経営組織論Ⅱ

長岡　健

経営学科専門科目300番台経営学科専門科目　3〜4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈優〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないでしょうか。
この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】
（1）多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。
（2）経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。
（3）組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
秋学期の授業（経営組織論Ⅱ）では、「変わる社会、変わる組織」という視点から、関連する概念や理論をもとに、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①組織構造、②組織文化、③社会と組織、④変化と適応、という４つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、２週を１モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行いますが、受講者が主体的に考え、発言する機会（旧twitterを使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	組織構造①	組織設計の視点とピラミッド型組織の基本原理
第3回	組織構造②	組織形態のフラット化・ネットワーク化の進展
第4回	事例研究①	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第5回	組織文化①	企業文化論から見た日本的経営の特長と問題点
第6回	組織文化②	国際化・情報化の進展による日本的経営の変容
第7回	事例研究②	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第8回	社会と組織①	技術的進化と制度的変化（第四次産業革命とSDGsの影響）
第9回	社会と組織②	ダイバーシティ・マネジメントの可能性と課題
第10回	事例研究③	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第11回	事例研究④	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第12回	変化と適応①	組織変革を阻む要因（問題解決症候群；有能さの罠）
第13回	変化と適応②	学習棄却（アンラーニング）と越境活動の意味と方法
第14回	ラップアップ	秋学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書（1）『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。
（2）テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。
（3）各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計４回)。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中４０％)。
（4）本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】
以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この３冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。
（1）金井壽宏 『経営組織』（日経文庫） 日本経済新聞社
（2）ロビンス，S．P.『組織行動のマネジメント』 ダイヤモンド社
（3）グロービス経営大学院 『グロービスMBA組織と人材マネジメント』 ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
（1）最終レポート（1回）：４０％
（2）振り返りレポート（4回）：４０％
（3）ゲスト講義へのコメント（4回）：２０％

【学生の意見等からの気づき】
今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
（1）zoomを使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください)。
（2）受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、旧twitter（X）を活用する予定です。受講者は旧twitter（X)のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
（3）上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】
（1）オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。
（2）『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】
（1）プロフィール
http://www.tnlab.net/profile.html
（2）ゼミ活動
http://www.tnlab.net/seminar/
（3）FACEBOOK
https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9
（4）X（旧twitter）
https://twitter.com/TakeruNagaoka

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.
In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]
The objectives of this course are :
(1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and

(2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]
The learners in this class are expected to to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]
Grading will be decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

ARS100ZA

UK: Society and People

Brian Sayers

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：木3/Thu.3
Notes：TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準１級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。
その他属性：〈グ〉〈ア〉

【Outline and objectives】
This course will provide an introduction to the culture and society of contemporary Britain. Students will acquire knowledge about Britain: it's geography, climate, history, traditional culture, religion, political system, society, Britishness, and so on. The course will survey British society following globalization after Thatcher's government. Britain in the 70's was a nightmare, economically crippled, politically in a quagmire, and yet culturally vibrant. Thatcher, as prime minister (1979-1990), changed Britain drastically in the 80's. She insisted on free enterprise and deregulation, employed monetarist policies, privatized nationalized industries, passed legislations to weaken trade unions' political power, and was tenaciously skeptical about the deepening of European integration. However, socially, she was conservative and put an emphasis on the importance of traditional family, a self-help work ethic and community. Whether her policies worked well or not is still in discussion, but she is commonly thought to have prepared the way for globalisation, economic success, and the rise of so-called Cool Britannia. Political issues are often related to nation, religion, immigration, ethnicity, class, globalisation, gender, youth culture, and so on.
With UK as a case theme, we also understand the diversity of cultures around the world and the significance of enhancing communication with people from other cultural backgrounds.

【Goal】
Students will (1) acquire the general knowledge of the society and people in contemporary Britain, (2) learn how one of the most globalized nations has gone through the changes, and (3) think about the new realities and the implications of the changes. By comparing the situations in Britain and Japan, students will gain clearer perspectives on complex issues common in the most advanced and affluent countries.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
Students will attend lectures, read related materials, write short essays, watch videos and films, and have two written examinations.
Feedback will be given through Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	An Introduction	Course overview
2	The Country	Geography, climate and history
3	British Attitudes	Characteristics of its people
4	Ethnicity and Identity	The English, the Celts and ethnic minorities The class compares UK and Japan with regard to the conservation of culture
5	Politics	The British Constitution and its government
6	Religion	Christians and non-Christians
7	Course Review and Mid-term Examination	Course review, students' inquiries and discussions Written examination
8	Monarchy and Class Society	History and changing attitudes The class is expected to compare UK and Japan in these aspects
9	Britain in Films	People, society and culture in films
10	The Economy	The economy after Thatcher
11	Britain in the World	Foreign policy and its relations with the US and EU
12	Family Life	Changing mores, education and social services
13	Culture	Sport, leisure, and the arts The class is expected to compare UK and Japan in these aspects
14	Course Review End-term Examination	Students' inquiries and discussions Course review Written examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbooks will be used. The lecturer will provide handouts and reading materials.

【References】

Abercrombie, Nicholas and Alan Warde. (2000). *Contemporary British Society* (3rd edn). Cambridge: Polity Press.
Leventhal, Fred M. (ed) (2002). *Twentieth-Century Britain: An Encyclopedia* (rev. edn). New York: Peter Lang.
Oakland, John. (2015). *British Civilization: An Introduction* (7th edn). London: Routledge.
Oakland, John. (2001). *Contemporary Britain: A Survey with Texts*. London: Routledge.
Higgins, Michael, et al.(eds) (2010).*The Cambridge Companion to Modern British Culture*. Cambridge: CUP.
O'Driscoll, James. (2009). Britain For Learners of English. Oxford: OUP.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on class participation (30%), a writing assignment (20%), and exams (50%). More than two unexcused absences will result in failure of the course.

【Changes following student comments】
None.

【Prerequisite】
None.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	◎					

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その1～4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）にアップされる。前回分を学習支援システム（同）よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト(50％)並びに作図課題(50％)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その1～4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）にアップされる。前回分を学習支援システム（同）よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト(50％)並びに作図課題(50％)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　|　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈Ｓ〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	40%
（D）専門基礎学力	40%
（E）専門知識の活用・応用能力	20%
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その1～4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）にアップされる。前回分を学習支援システム（同）よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト(50％)並びに作図課題(50％)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築フォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈Ｓ〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。
毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を７回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で７回となっているのは、各講演の時間が2時限分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%）と７回のレポート（講演メモ＋講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：**秋学期後半/Fall(2nd half)**　|　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
１）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
２）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
３）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
４）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版 など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50%of the exercises and 50-70%of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステイナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：**秋学期後半/Fall(2nd half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
１）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
２）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
３）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
４）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション１	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション２	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が３回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50%of the exercises and 50-70%of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステイナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：**秋学期後半/Fall(2nd half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
１）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
２）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
３）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
４）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30〜50%）とプレゼンテーション（50〜70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50%of the exercises and 50-70%of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステイナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：**秋学期後半/Fall(2nd half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
１）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
２）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
３）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
４）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50%of the exercises and 50-70%of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：**秋学期後半/Fall(2nd half)**　|　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
１）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
２）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
３）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
４）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション１	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション２	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が３回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50%of the exercises and 50-70%of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野　淳太

開講時期：**秋学期後半/Fall(2nd half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら，建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】
1）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	○	◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組みあわせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステイナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の理論を復習すること。また，シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原則として使用せず，必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】
田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画　熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】
時限中に計算、設計等を行い，毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
演習は，今まで経験していない内容もあるが，想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】
事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】
講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maitaining comfort.
Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.
Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.
Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50%of the exercises and 50-70%of the final presentation.

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈Ｓ〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。
毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、
学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と１回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6-7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6-7回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
６－７回のレポート（講演メモ＋講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90％）となる。質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価（10％）として加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6-7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　|　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。
毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を７回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で７回となっているのは、各講演の時間が2時限分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%）と７回のレポート（講演メモ＋講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　|　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈Ｓ〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。
毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？　デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を７回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で７回となっているのは、各講演の時間が2時限分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%）と７回のレポート（講演メモ＋講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today’s community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]
In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

街づくりとデザイン

渡邉　竜一

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代に進められた都市基盤施設の充実と宅地供給といった市街地整備の図式が変化していく中、街づくりの課題や方法は多様化している。この授業では土木だけでなく、建築、ランドスケープ、メディア、映像、アートなど他分野含めたの外部講師をゲストに招きながら、授業を進めます。

【到達目標】
現代における街づくりは、ハードの整備だけでなく、柔軟な発想とコミュニケーション能力が求められる。豊かな環境を発想し、多くの人と共有していくプロセスの一端から、自ら課題を見つけ出し、考える力を身につける。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	20%
（E）専門知識の活用・応用能力	60%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は、対面とします。シラバスとは異なる授業計画とします。詳細はHoppiiに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	街づくりと呼ばれる分野の概観と当授業で扱う内容、その方向性などについて講義する。
2	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
3	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
4	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
5	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
6	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
7	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
8	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
9	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
10	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
11	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
12	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
13	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
14	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
進捗に合わせ必要に応じて紹介する。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
出席（70％）、授業態度・意欲（30%）で評価。
欠席2回以上または提出物未提出は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
In this course, we explore the man-made environment from diverse disciplinary backgrounds and points of view, engaging in intense design communication, extensive research of the present environment, and studies of urban history and theory.

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野　ブレンダン

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　|　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2 級 voire 準 1 級), ainsi que le concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち，「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.
Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.
この授業では，作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので，そのつもりで参加して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation des participants Organisation et calendrier des activités
2	La beauté pour tous	Une nouvelle référence de beauté?
3	DELF B1	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°1)
4	Vidéo ①	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
5	Lecture extensive ①	Présentation du premier livre lu
6	Vidéo ②	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
7	Description physique et caractère	Un discours Choisir un collaborateur
8	DELF B1	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°2)
9	Lecture extensive ②	Présentation du 2e livre lu
10	Vidéo ③	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ③
11	Caricatures ①	"Le Canard enchaîné" ①
12	DELF B1	Entraînement: compréhension orale
13	Lecture extensive ③	Présentation du 3e livre lu
14	Caricatures ②	"Le Canard enchaîné" ②: présentations des étudiants

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習は当然ながら必須。この授業は２単位科目なので，法政大学学則（「1 回の授業につき 4 時間以上」）に従い，本授業の準備学習・復習時間は4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur LMS ou Google Classroom.

【参考書】
Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.
Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，クラス内業務、その他の小テスト:約 35 %
・リーディングマラソン(フランス語多読):約 25 %
・作文:約 25 %
・出席点:約 15%。尚，出席点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり，遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，特に工夫する必要のある点がないように思いました。改善を全くしない，という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).
En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】
Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication. Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
・Homework, short tests and presentations: app.35 %
・"Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %
・Essays: app.25 %
・Attendance: app.15%。

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野　ブレンダン

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　|　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2 級 voire 準 1 級), ainsi que du concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.
Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.
この授業では、作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような 課題も課せられますので、そのつもりで参加して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Présentation du cours Auto-évaluation des étudiants	Organisation et calendrier de la classe TCF en ligne
2	Tourisme et voyages	Tourisme créatif Organiser un voyage
3	DELF B1 (ou B2)	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°1)
4	Projet	Réaliser une carte postale sonore
5	Lecture extensive ①	Présentation du premier livre lu
6	Environnement ①	Les distributeurs de boissons au Japon
7	Vidéo ①	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
8	DELF B1 (ou B2)	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n ◦ 2)
9	Lecture extensive ②	Présentation du 2e livre lu
10	Vie de famille	Les liens de famille Le plus-que-parfait
11	Vidéo ②	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
12	DELF B2	Entraînement: compréhension orale (urbanisation)
13	Lecture extensive ③	Présentation du 3e livre lu
14	CBC/Radio Canada	Compréhension orale

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習は当然ながら必須。この授業は２単位科目なので，法政大学学則（「1 回の授業につき 4 時間以上」）に従い，本授業の準備学習・復習時間は 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur LMS ou Google Classroom.

【参考書】
Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.
Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，クラス内業務、その他の小テスト:約 35 %
・リーディングマラソン(フランス語多読):約 25 %
・作文:約 25 %
・平常点（授業への参加状況）:約 15%。 尚、平常点に関しては減点方式をとり、4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み、工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).
En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】
Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication.
Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
・Homework, short tests and presentations: app.35 %
・"Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %
・Essays: app.25 %
・Class participation: app.15%

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

カレンス　フィリップ

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2年間学んだフランス語の知識（語彙や文法など）を生かして、フランス語のコミュニケーション能力を高める授業です。日常の場面に応じて、フランス語で様々な練習問題を行い、フランス語を話す力を強めます。文法を復習しながら、新しい語彙や表現を覚えながら、フランスとフランスの文化についてももっと詳しく学びます。

【到達目標】
授業の目標はコミュニケーションの力を上げることです。
次の三つのポイントに重点を置きます。
1．フランス語の日常会話をもっと聞き取れるようにする。
2．フランス語の文法の知識を高め、色々な練習に通じて強化する。
3．フランス語の語彙や言い方を増やして、使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的には対面で進めることを想定していますが、状況に応じてオンライン授業へと移行することがあったら、お知らせします。学生からの質問には授業時間内、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。
授業の内容に関しては、まず、テキストを見ずに対話を聞き、理解し、少しずつ繰り返し音読します。その後、テキストを見ながら再び音読します。さらに、内容と関連がある練習問題を行います。最後に学んだものをもう一度使い、ロールプレーをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Prise de contact Explications du programme L1 p10 Chez le traiteur la quantité encore/ ne … plus) pronom “en”	自己紹介 プログラムの説明 1課　素材屋で 部分冠詞 量の表現 “en”代名詞
②	L2 p14,15 Commander un repas souhait conditionnel	2課 食事の注文 願う
③	L3 p18 A la boutique de bijoux pronoms démonstratifs	3課 宝石のブチックで 指示代名詞
④	L5 p22 Modifier une réservation (table ou chambre) verbe conjugués +verbe infinitif	5課 予約の変更 レストラン／ホテル 動詞＋不定詞
⑤	L6 p24 A la banque Complément de nom: ”de”	6課 銀行で 名詞補語　”de”
⑥	L7 p26 Echanger, se faire rembourser Expressions de temps + passé composé	7課 交換する 返済してもらう 時間の表現＋複合過去
⑦	Révisions Test de mi-trimestre	復習 中間テスト
⑧	L9 p32 Faire des comparaisons verbes construits sur des adjectifs, comparatif superlatif	9課 比較する 比較法 最上級
⑨	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte	10課 問い合わせする 間接法
⑩	L11 p40 Localiser prépositions/ adverbes de lieu	11課 位置、 場所を突き止める 場所の前置詞と副詞
⑪	L12 p44 A l’agence immobilière Subjonctif/indicatif	12課 不動産屋で 接続法か直接法
⑫	L13 p50 Résilier un contrat Comparaison Expression du futur	13課 賃貸契約を取り消す　未来形
⑬	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive	15課 窃盗の被害届　される 受動態
⑭	Révisions Test final	復習 期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回課題（宿題）を出すので、よく復習してください。
本授業の宿題・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Communication Progressive du Francais - A2 B1 Intermédiaire 2eme Edition: Livre de l’élève + Cd-audio,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-209-038447-5)

【参考書】
辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくと便利です。授業の予習・復習にぜひ活用してください。

【成績評価の方法と基準】
1. 中間テスト・期末試験:60 %
2. 課題:30%
3. 積極性:5 %
4. 平常点:5 %

【学生の意見等からの気づき】
より実践的に使えるフランス語を身につけさせる。
さらに、フランスの暮らしや文化についても取り入れていきたい。

【その他の重要事項】
On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c6363531333636353638383434393 5.pdf

【Outline (in English)】
The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panels of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture.
Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided on the following:
Mid-term and Term end examination: 60 %, Assignments: 30 %,
and in class contribution 10 %.

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野　ブレンダン

配当年次／単位：**3〜4年／２単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　|　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire (B1/B2). A travers différents types d'activités, les étudiants pourront développer et renforcer leurs compétences de compréhension et de production à l'oral ainsi qu'à l'écrit. Ils pourront aussi, à travers les thèmes étudiés, compléter et élargir leurs connaissances sur les cultures francophones, et réfléchir à certains problèmes environnementaux.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage: enrichissement du vocabulaire, développement des capacités d'écoute et d'expression orale et écrite. En lien avec les autres cours de フランス語アプリケーション, il permet la préparation des examens du DELF (niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Les étudiants réaliseront diverses activités à partir d'extraits de trois bandes dessinées francophones récentes traitant de divers problèmes environnementaux. Ces activités leur permettront de travailler à la fois la compréhension orale, l'expression orale, mais aussi l'expression écrite.
Il s'agit d'un cours de type "Contents based learning".
En fonction du nombre d'étudiants, nous réfléchirons à la possibilité de participer à la "Journée de découverte de la Francophonie" organisée en décembre par la SJDF et l'Institut français, afin d'y présenter un travail oral sur la francophonie au Japon.
Le programme proposé ci-dessous est donc susceptible d'être modifié en fonction de la situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Introduction	Présentation du cours (programme, activités...) et des participants
②	Comment les riches ravagent la planète (2024)	Présentation de la BD
③	Comment les riches ravagent la planète	Partie 1: Jour de fête, jours de chauffe
④	Comment les riches ravagent la planète	Partie 2: Qui cause la catastrophe? Comment l'ostentation ravage la planète
⑤	Comment les riches ravagent la planète	Présentations des étudiants
⑥	Ressources : Un défi pour l'humanité (2024)	Présentation de la BD
⑦	Ressources : Un défi pour l'humanité	Partie 1: Les Cornucopiens, L'exponentielle,Les ressources
⑧	Ressources : Un défi pour l'humanité	Partie 2: De Gaïa à Thanatia, Le recyclage, Une civilisation techniquement soutenable
⑨	Ressources : Un défi pour l'humanité	Présentations des étudiants
⑩	Le Monde Sans Fin (2021)	Présentation de la BD
⑪	Le Monde Sans Fin	Partie 1: L'énergie
⑫	Le Monde Sans Fin	Partie 2: Le climat
⑬	Le Monde Sans Fin	Présentations des étudiants
⑭	Discussion finale	Que retenir de ces trois BD?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, en cours ou pour le cours suivant (lire les pages suivantes, réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習は当然ながら必須。この授業は２単位科目なので，法政大学学則（「1回の授業につき4時間以上」）に従い，本授業の準備学習・復習時間は4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Documents préparés et distribués en cours ou sur le LMS par l'enseignant.

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé, et au minimum un dictionnaire français-japonais /japonais-français. (Pas de FAUX dictionnaire en ligne!!!)

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，その他の小テストや課題:約 40 %
・リーディングマラソン (フランス語多読):約 20 %
・作文:約 20 %
・平常点（授業への参加状況）:約 20%。尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2 回につき欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。10 分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【Prerequisite】
Avoir fait deux ans de français, ou justifier d'un bon niveau A2 au minimum.

【Outline (in English)】
The purpose of this course is the development of communication skills (oral and written) in French for intermediate level (B1/B2).
Through different kinds of activities mainly based on comic books (ask and answer questions, reading, writing, etc.),students will strengthen their comprehension and production capacities in order to develop both oral and writing expression.
Through the selected themes (mainly environmental problems), students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
・Homework, short tests and presentations: app.40 %
・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %
・Essays: app.20 %
・Class participation: app.20%。

ARSe200GA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国の文化Ⅰ（現代中国社会）

張　勝蘭

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　|　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、現代中国社会に関する基礎知識を習得し、歴史・政治・経済・民族・文化などの側面から現代中国を総合的に理解することを目的とする。現代中国の社会と文化の多様性、日本を中心とする東アジアとの繋がりについて、多角的視点から思考を深めることを重視する。具体的には社会の各側面・文化に焦点を当てながら、その背景となる歴史・政治・経済・日中関係について説明する。トピックを重視し、等身大の中国について紹介する。

【到達目標】
①現代中国社会に関する基礎知識を習得する。
②現代中国社会に関する重要な事柄について、多角的視点から根拠に基づき自らの見解を論理的に説明することができるようになる。
③等身大の中国を知り、中国に関するマスメディアの情報を客観的・多角的に捉えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
この講義では歴史・政治・民族・経済・社会構造・教育・環境・文化・日本と中国の順で、現代中国社会の現状と変化を概観する。一般民衆の暮らしの次元から社会の変容、価値観の変化を考察する。質問の受付や課題へのフィードバックは授業内、学習支援システム及びメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	現代中国社会のアウトラインを説明し、行政区分・地域区分とその特徴、多民族の状況などの予備知識を紹介する。授業の進め方、シラバスの使い方、成績評価についても説明する。
第2回	歴史：中華人民共和国の成立とその後の道のり	現代中国社会を理解するために、まず中国とは何か、その歴史的背景に触れた上で、中華人民共和国成立の経緯、及び成立後から現在に至るまでの歴史を概観する。
第3回	政治：多民族国家―中国	多民族国家である中国の社会を理解するために、国家統合においてきわめて重要な民族問題について知っておく必要がある。「民族識別」工作、「民族区域自治」制度から、「優遇政策」から見る民族間関係について説明する。
第4回	民族①：マジョリティーの漢族について－少数民族社会との関わりから	現代中国社会を理解するには、まず中国全人口の九割以上を占める漢族を理解する必要がある。中国社会における漢族とは何かについて説明する。漢族のサブグループとされる客家人を事例に、少数民族社会との関わりも検討する。
第5回	民族②：漢族の伝統文化と多様な地域性	漢族の主な伝統文化、衣食住から見る多様な地域性について講義する。
第6回	経済：改革開放と経済格差	中国経済の大転換である改革開放政策の実施、それに伴う内陸部・沿岸部、都市部・農村部の経済格差の拡大について講義する。三農問題・出稼ぎ者・留守児童・ポイント制度などにフォーカスして考察する。
第7回	社会構造：拡大する「中間層」の実態	経済発展と共に形成されてきた「中間層」（中等収入者）の実態、そして、彼らは海外との接触などにより、人権意識をはじめとする社会的政治的意識の変化について講義する。
第8回	教育：超学歴社会と教育格差	現代中国は熾烈な学歴社会となり、教育の格差が拡大しつつある状況にある。進学をめぐる競争、若者の就職難などの問題を通してその背景と実態について講義する。
第9回	環境：南・北の違いと「南水北調」	多様な風土から中国社会を考え、経済発展と共に喫緊の課題となった「水問題」について、「南水北調」プロジェクトを通して考察する。
第10回	文化①：「80後」・「90後」・「00後」の「新人類」文化から見る日中交流	80年代、90年代、00年代生まれのいわゆる「新人類」の文化に注目し、特にアニメ・コスプレなどのサブカルチャーを通して見た中国と日本の新たな交流について講義する。
第11回	文化②：中国の言語文化	漢語から少数民族の言語まで中国における多様な言語文化を概観する。また現代の世相を反映する「新語」などについて講義する。
第12回	日本と中国①：近代の日中関係	「開国」した日本は「和魂洋才」を目指し、和製漢語で西洋文化を吸収していった。「開港」した中国は「中体西用」を基本方針とし、西洋文化と距離を置いた。西洋をめぐる新たな国際環境の中で日本と中国の間に様々な対立が生じたが、多くの協力もあった。中国社会の近代化における日本の影響を考察する。
第13回	日本と中国②戦争から国交正常化・日中協力へ	日中戦争を経て、日中関係が凍結したが、1972年に国交正常化した。1978年から中国経済の大転換である「改革開放」が実施され、日本の全面的支援を受けた。戦争の記憶を含め、この時期の日中関係が中国社会に与えた影響を講義する。

第14回	日本と中国③ 戦略的互恵関係	改革開放を経て、世界第二の経済大国に成長した中国は、日本の最大貿易相手国となった。また日本も中国にとって大変重要な貿易相手国である。両国は様々な問題を抱えながらも戦略的互恵関係を模索している。民間交流に注目し、現在における日中関係と中国社会について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppiiにアップロードされた講義資料を参考に、シラバスに記載された参考書及び毎回の追加参考文献の関連部分を読み、授業内容への理解を深める。受講者は各2時間を使い、事前・事後に関連知識の予習、授業の振り返りを行い、理解を深めることに努める。疑問点を整理し、まとめる。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。毎回、事前に講義資料をHoppiiにアップロードする。

【参考書】
中国研究所編『中国年鑑』（2019年版）明石書店、2019年
エズラ・F・ヴォーゲル/益尾知佐子訳『日中関係史―1500年の交流から読むアジアの未来』、2019年
藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
富坂聡『中国の論点』角川oneテーマ21、2014 年
毛里和子/園田茂人編『中国問題―キーワードで読み解く』東京大学出版社、2012年
家近亮子・唐亮・松田康博編著『5分野から読み解く現代中国―歴史・政治・経済・社会・外交』（改訂版）晃洋書店、2009年
興梠一郎『中国激流―13億のゆくえ』岩波書店、2005年
また授業時に各テーマについての参考文献を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①現代中国社会に関する基礎知識が習得できている。
②授業で扱った重要な現代中国社会の問題、文化事象を理解し、根拠に基づき論理的に説明できる。
以上の2点に着目し、期末レポート（60％）、リアクションペーパー（20％）、受講態度（授業中の発言・質問）（20％）を用いてその到達度を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
授業の理解度を高めるために、音声・映像などのコンテンツを活用する。私語などを注意し、授業に集中しやすい環境づくりに努める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course introduces the changing values and lifestyle of Chinese people from viewpoints of politics, nation, economy, social structure, education, environment, culture, Japan-China relations to students taking this course.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to comprehensively understand the real China.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, participants will be expected to read the relevant chapter(s) from the text and write the reaction paper. Your required study time is two hours for each class meeting.
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: term-end report（60％), reaction paper（20％）, and in-class contribution（20％）.

HIS200GA（史学 / History 200）

朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）

神谷　丹路

配当年次／単位：**2〜4年／２単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮半島は，日本の隣国、隣人であり、地理的にも歴史的にも、日本と密接な関係のある地域です．この授業では，朝鮮半島の文化や歴史、社会についての基礎事項を学びます.近年、朝鮮半島は、アジアへ、また世界への影響力を増しています。長い歴史の中で、朝鮮半島は、中国の影響を受けつつも、独自の文化・歴史を形成し、さらには日本へも大きな影響を与えてきました。朝鮮半島についての基本的な知識を身につけ、あるべきパートナーシップとは何かを探求することを目的とします.

【到達目標】
朝鮮半島独特の文化や歴史に関する基礎知識を身につけることによって，日本など周辺国との類似性や差異性についての考察ができるようになり、また東アジア全体を見渡すことができる広い視野を獲得します.さらに興味のある分野について，自分から引き続き勉強を続けていけるような力を身につけます.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的な流れは、以下の通りである。
朝鮮半島の地理、文化、歴史を概観し，基礎的な知識を確認する。その上で、朝鮮半島と日本とのあいだの文化的相互作用、共通点などに着目するとともに，一つの事象であっても、日本と朝鮮半島では、とらえかたが相違することもあり、それらを俯瞰的な視点から学ぶ。視覚資料を多く取り入れた授業資料を用い、幅広い、朝鮮半島の文化、歴史、社会の知識を吸収する。小テストを随時実施し、間違いの多かった問題などについては、次の授業時に解説する。なお、この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち、もっとも入門的なものの一つである.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入／朝鮮・韓国とは	・朝鮮半島の２つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・国のシンボル、言語、祝日 ・建国神話、昔話
2	民俗文化・伝統文化	・ユネスコ無形文化遺産 ・アリラン、パンソリ、ナムサダン、綱渡り、カンガンスルレ ・綱引き、農楽 ・キムチ
3	伝統行事と儒教文化	・正月、秋夕 ・葬送儀礼 ・儒教祭祀 ・現代社会と儒教 ・その他の宗教
4	古代から中世へ	・伽耶と倭 ・百済・高句麗と日本 ・新羅と日本 ・高麗と日本
5	中世から近世へ	・朝鮮王朝時代と日本 ・ハングル創製 ・科学、学問の発達 ・国難：豊臣秀吉、李舜臣 ・善隣友好外交、朝鮮通信使の訪日
6	朝鮮王宮と近代	・景福宮（王宮の再建から王妃虐殺事件まで） ・徳寿宮（大韓帝国の近代） ・昌徳宮（最後の国王、植物園、動物園）
7	日本の植民地時代	・韓国統監伊藤博文 ・在朝日本人 ・「土地調査事業」 ・三一独立運動 ・食糧「増産」と農民 ・戦時労務動員
8	解放から1950年代	・38度線と東西冷戦 ・朝鮮戦争 ・南北分断の固定化 ・離散家族
9	1960年代、70年代	・海外出稼ぎ ・日韓国交正常化 ・ベトナム戦争と韓国 ・財閥の形成
10	1980年代、90年代、2000年代	・社会の葛藤と民主化 ・民主化宣言 ・88年オリンピック ・労働運動 ・済州島四三事件の真相究明（歴史の再評価）
11	朝鮮沿岸漁業の百年	・朝鮮の漁業 ・20世紀前半日本漁民の朝鮮出漁 ・李ラインと日本漁船 ・日韓漁業協定 ・領土問題 ・済州島の海女
12	歴史の和解とは	・日本の戦争責任問題 ・日韓の摩擦 ・市民の文化交流 ・サブカルチャー ・韓国の日本語学習、日本の韓国・朝鮮語学習
13	世界のコリアン・韓国の外国人	・外国人労働者 ・多文化家庭 ・海外留学 ・在外コリアン
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
朝鮮語の知識は必要ありません．朝鮮・韓国に関する報道に関心を持ち，関連する本を積極的に読んでください．本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、授業資料を配布します.

【参考書】
参考文献はその都度指示します.
『新訂増補　韓国朝鮮を知る事典』（平凡社）2014年
『日韓でいっしょに読みたい韓国史』（明石書店）2014年
『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史　前近代編下』（青木書店）2006年
『学び、つながる日本と韓国の近現代史』（明石書店）2013年

【成績評価の方法と基準】
授業の理解度を確認するために、随時、課題、小テストを行う。学期末には、学習のまとめとして期末試験を行う。課題および小テスト（30％）、期末試験（70％）で評価する方針である。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
現在進行形の日本と朝鮮半島問題についても、随時、授業と関連付けて提示する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】
ＳＡ韓国２年生はかならず受講してください．他学部の学生の受講も歓迎します．なお順序と内容に若干の変更がある場合があります.

【Outline (in English)】
＜ Course outline＞
In this class, the students will learn the basics of culture, history, and society on the Korean Peninsula.
＜ Learning Objectives＞
The aim of this course is to help to acquire historical and cultural basic understanding of the Korean Peninsula. Since the Korean Peninsula is the nearest neighbor region for Japan, it is very important to firmly understand the Korean Peninsula for peaceful stability in East Asia.
＜ Learning activities outside of classroom＞
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
＜ Grading Criteria/Policy＞
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, Assignments & little exams ： 30%.

ARSb300GA（地域研究（ロシア・スラブ地域） / Area studies(Russia/Slab) 300）

ロシア・東欧の文化

佐藤　千登勢

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　|　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシアといわゆる東欧諸国は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方がEU加盟を果たした東欧諸国。しかしそのなかで経済的には「優等生」と位置付けられてきたハンガリーが政治的にはEUのなかで足並みを揃えない傾向にあります。
なぜでしょうか。
この講義では、ロシアと東欧諸国（おもに、ハンガリー、ポーランド、チェコ）と今では北欧に分類されるエストニアのそれぞれの民族的差異や特殊性を、主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を概観すると同時にナショナリズムの問題を提起していきます。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の民族が共生するとはどういうことかをみなさんに考えてほしいと思います。
本講義は、SAロシアの事前学習科目なのでSAエストニア（SAロシア代替）の２年生は必ず履修してください。

【到達目標】
この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、適切な文章でこれらをまとめる力をコメントシートを通して養うことを目的としています。学生のみなさんは、つねに問題意識をもちながら授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義で扱う「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及）。さらに、北欧に属するエストニアについても講義を行います。これらの国々の歴史や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、美術）、社会情勢を視聴覚資料を通して概観しながら東欧諸国とロシア（ソ連）との関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや現代の社会問題を提起していきます。私たちにとってもアクチュアルな問題として考えていくようにしましょう。毎回、コメントシートに見解をまとめてもらいますが、そのなかで興味深いコメントを選択し、翌週の授業にてフィードバックしつつ、みなさんと共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ロシアと東欧諸国の言語・宗教／日本とポーランドの関係の一断面について。
第2回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、ヨーロッパ・ピクニック事件など。
第3回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉文化について映像をまじえて解説。
第4回	ハンガリー：音楽と映画をめぐって	ロマ楽団からリストやバルトークの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、サボー・イシュトヴァーン、ゴダ・クリスティナ、パールフィ・ジョルジ、タル・ベーラらの独特な作風の映画を紹介。
第5回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。
第6回	ポーランド：街並みと風土、そして歴史からみる音楽と映画	ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容所について。伝統音楽からショパンの作品を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。アンジェイ・ワイダ作品の一部を鑑賞しながら史実を後世に伝える映画の力について考える。
第7回	ポーランド：社会を反映する映画	ポランスキー、キェシロフスキ、スコリモフスキ、シュモフスカ、パヴリコフスキらの映画を一部鑑賞しつつ、そこに描かれる社会情勢を汲みとる。
第8回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『プラハ！』に描かれるチェコ事件について。
第9回	チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に	プラハ、チェスキー・クルムロフ、テルチ、ホラショヴィツェの歴史地区の歴史と佇まいについて。
第10回	チェコ：文学と映画をめぐって	プラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コーリャ、愛のプラハ』を紹介。
第11回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのパペットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品について。
第12回	エストニアの歴史外観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧の歴史から e-Estoniaの社会に至るまでの軌跡。
第13回	エストニア：街並みと風土	首都タリンの旧市街、カドリオルグ宮殿、「歌と踊りの祭典」、世界遺産について。
第14回	エストニア：文学と映画、音楽をめぐって	キヴィラフク、クロス、ヘインサーの文学、映画『ノベンバー』（サルネット監督）／アルボ・ペルトの音楽を通してエストニアの精霊信仰や死生観について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会を設けてほしいと思います。映画作品のDVDソフトは大学のAVライブラリコーナー、もしくは国際文化学部資料室にある場合が多く、文学作品は図書館で借りることができます。予習・復習を行う時間には毎回４時間以上、期末レポートの作成には、１週間以上かけてください。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。毎授業にて、教員が作成した資料を教場もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
特定の参考書はありませんが、適宜、参考文献を教場もしくは学習支援システムにて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％、コメントシート30％、期末レポート20％に基づき、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
静かな環境で講義を進められるよう、配慮しますが、何よりも、皆さんの協力に期待します。

【Outline (in English)】
●Course outline
The course covers the history, culture and art of Russia and Eastern Europe (Hungary, Poland and the Czech Republic), as well as Estonia. In the process, students will understand and appreciate the domination and nationalism of the satellite countries.
●Learning Objectives
While watching videos about Russia,Eastern Europe and Estonia, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.
●Learning activities outside of classroom
Students should have the opportunity to re-watch the films, literary works, and music introduced in class. DVD software for movie works can be found in the AV library of the university or in the library of the Faculty of Intercultural Communication, and literary works can be borrowed at the library.Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.Please take about a week to create the term-end report.
●Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(50 %),Short reports(30 %) and term-end reports(20 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

PHL200GA（哲学 / Philosophy 200）

フランス語圏の文化Ⅰ（思想）

大中　一彌

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
［授業の目的］この授業では、17世紀を中心とするフランスの思想や文化をめぐり、いくつかの作品を概観します。この時代は、その後、グローバルに広がっていく近代社会の基本的な枠組が — よくも悪くも — 西ヨーロッパにおいて形づくられた時代です。この時代についての知識を得て、考えを深めることは、受講者自身がさまざまな文化に関して抱いている価値観を、より奥行きのある、洗練されたものにしていくのに役立ちます。
［授業の概要］
※世界史を大学受験のさいに選ばなかった人を念頭に置きつつ、基礎知識を補う意味で、やや長めに「授業の概要」を以下に記述します。
●デュビィ&マンドルー『フランス文化史』Ⅱによれば、17世紀前半のフランスは、ひとりの人間にたとえるなら「青春時代」のような状態にあった。ジャック・カルティエが「カナダ」と呼び、16世紀に探検した北アメリカの土地へは、17世紀に入ると交易やフランスからの入植が進められた。
●同じ頃、活版印刷と結びついて西ヨーロッパに広がった宗教改革は、伝統的なカトリック教国のフランスにも、プロテスタントの信仰を浸透させた。この浸透の結果もたらされた悲惨な宗教戦争を、ナントの勅令（1598年）により収拾したのはブルボン朝の創始者アンリ４世である。これに続く17世紀前半は、若々しさを連想させる経済社会の成長を基調としながらも、成長ゆえにカトリック教会を含む従来の秩序がゆらいだ時代でもあった。
●同時代の哲学者ルネ・デカルトは、迷信や思い込みに囚われた人間の意識のあり方を疑い、知識の確実な基礎を、数学や自然科学を支える合理精神のなかに、むしろ見いだした。
●同じく17世紀の哲学者パスカルの「人間は一本の葦に過ぎない、だがそれは考える葦である」という言葉は、環境に左右されやすく傷つきやすい肉体の弱さと、無限の宇宙をも分析しうる知性がもつ尊厳のあいだで、揺れ動く人間の姿をよく特徴づけている。
●17世紀から18世紀前半にまたがるルイ14世の治世は、フランス史において「偉大な世紀」と呼ばれる。政治面においてはいわゆる絶対王政、文化面においてはいわゆる古典主義をつうじて、それぞれの領域における秩序の完成が目指された。
●ナントの勅令の廃止（1685年）によりカトリック教国としての純化を図り、宗教的寛容で知られた当時随一の商業大国ネーデルラント（オランダ）を屈服させようとしたルイ14世の力の基盤となっていたのは、フランスの人口の多さ（約2000万人）にくわえ、国内における強力な徴兵・徴税制度といった、リシュリューやマザラン、コルベールら、王権に仕えた実務家たちがつみあげた成果のうえにできた、集権的な世俗の国家であった。
●また、文化面における古典主義は、こうした国家から庇護を受け、ルイ14世という君主の栄光を讃美する（現代でいう）プロパガンダの面を確かにもっていたが、ヨーロッパの多くの宮廷が模倣するような対外的影響力も実際に有していた。
●イギリスやオランダとともに、いわゆる啓蒙思想の震源地であったこの時代のフランスの哲学者たちは、国境を越えた「文芸の共和国」のなかで活動しており、ルイ14世により確立された集権的な専制政治や、宗教における純化志向がもたらしがちな狂信に対して、しばしば批判的であった。

【到達目標】
１．人が学び、成長し、より洗練された文化がかたちづくられていく際に、「古典」が果たしうる役割について、大学生にふさわしい建設的な意見を述べることができる。
２．「オリエンタリズム」や「ヨーロッパ中心主義」のような、基本的にはヨーロッパの外側からする定型的な批判にとどまることなく、異文化としての17世紀フランスを、ある程度内側から見る、個別の作品に即した理解をもったうえで、みずからの考えをまとめることができる。
３．ヨーロッパの近世芸術におけるギリシア・ローマの神々のモチーフの重要性や、モンテーニュやデカルトに見られる、旅行を通じ、みずからが生まれ育った文化（「自文化」）を相対化する視点に着目しながら、17世紀フランスにおける、さまざまな宗教や宗教批判のあり方について、「一神教は不寛容」「多神教は寛容」といったステレオタイプに陥らずに、論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・この授業は基本的に「対面」です。
・学生からの書き込み等に対するフィードバックは、基本的に授業時間内に行いますが、学習支援システムやGoogle Classroomを利用する場合があります。
・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱い切れなかった内容を補足する動画を、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	シラバスと毎回進行表の説明	この授業での学び：古典と「古典主義」。チャールズ英国王のフランス語スピーチ
第2回	フランスにおけるルネサンス	16世紀：お手本としてのイタリアの芸術
第3回	国民性としての「古典主義」というストーリー	「フランス精神」の理想は、明晰（めいせき）・判明なデカルト的合理主義、と伝統的に主張されてきた。古典主義と合理主義の結びつきに関するフーコーとデリダの対比
第4回	デカルトと「悪しき霊」	私や世界は実在すると、ほんとうに言えるのか？　あなたは悪しき霊（an evil genius）にだまされて、夢やまぼろしを現実と取り違えているだけではないのか？
第5回	遠近法と劇のなかの劇	デカルトは『屈折光学』で動物実験から網膜には我々が見る対象と似た「絵」（画像）が観察されると確認していた。フランス式の庭園とは、「光学とだまし絵の新しい法則」が活かされる、スペクタクルの空間である。
第6回	コルネイユ『舞台は夢』	原題はイリュージョン・コミック。全ては幻影なのか、それともむしろ、フィクションこそが人生の学校なのか？
第7回	絵画における古典主義	ワインと血、ダンスにあふれる若きプッサンの絵画。晩年のプッサンの作品《春》で神はどちらを向いていたか？
第8回	《王は踊る》	沼地に囲まれた小さな城館に過ぎなかったヴェルサイユが、ダンス好きの君主ルイ14世により、権力と芸術のための一大装置と化しました。

第9回	宮廷社会の成立	日本にも「すまじきものは宮仕え」という表現がありますが、王様の恩顧を得ようと競うフランスの宮廷社会でも、洗練された貴族の作法を身につけていないと生き残れなかったようです。
第10回	ヴァニタスと神の恩寵	シャンペーニュの絵画《ヴァニテ、あるいは人生の寓意》では、生命を象徴する赤い花のとなりに頭蓋骨と砂時計が置かれます。その意味とは？
第11回	モラリストと仮面	モラリストの「寓話」や「箴言（しんげん）」はしばしば挫折の経験を昇華したもの。子ども向けの寓話だからと、あなどるなかれ。
第12回	幾何学的な無限と「考える葦」	デカルトと並び、17世紀フランスを代表する思想家のパスカル。今でもヘクトパスカル（hPa）などの物理分野の単位に名を残しています。
第13回	パスカルの賭け	「私たちには、神が何であるかも、果たして存在するかどうかも、知ることができない…だが賭けなければならない」。あなたなら、神の存在、神の不在、どちらに賭けますか？
第14回	サン・テグジュペリ『人間の大地』（1939年）	「１人の痩せたパスカルを生み出すことは、金回りの良い月並みな人間を数名誕生させることよりよほど大事なことだ。」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（ア）毎回、授業にたいするコメントの執筆をお願いいたします。
（イ）（ア）以外で、希望する受講者が授業内容にかんする話題提供を行った場合、積極的な参加態度として加点いたします。指定するLMS（学習支援システム-Hoppiiの掲示板かGoogle Classroomのストリーム＞コメント）に、文章やリンクを貼り付けてください。
（ウ）この授業の準備や復習に必要な学習時間は、提示された資料や映像を検討したり、上記（ア）（イ）を行ったりするのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
・教科書を買う必要はありません。
・シラバスの【授業計画】に示されている内容にかんする資料を毎回配布します。
・なお【授業計画】のより詳しい説明を、次のリンク先に置いてあります（Excelファイル）https://x.gd/nmWv1

【参考書】
参考となる映像作品：
パトリス・シェロー監督『王妃マルゴ』1994年。
ジェラール・コルビオ監督『王は踊る』2000年。
エリック・ロメール監督『モード家の一夜』1969年。
ロジェ・ヴァディム監督『ドンファン』1973年。
参考となる音楽作品：
夜の王のコンサート（夜の王のバレエに基づく）※原題"Le Ballet Royal de la Nuit"で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】
（ア）期末試験：実施しない（0%）
（イ）期末レポート：実施しない（0%）
（ウ）コメントシートの提出の有無および質（80%）
※各回10点満点、学習支援システム> テスト/アンケート機能から同じ週の土曜日午前09時00分00秒までに提出
（エ）平常点（20%）
※授業参加者数によるが、座席表に記入してもらうといった形を想定している。
（オ）その他（学生による話題提供、授業運営への協力、講師のミスの指摘を想定）
※（ウ）と（エ）の合計100%の枠外で5～20%の加点を行う。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・問い合わせ先や、この授業で扱う範囲（17世紀のヨーロッパ）に関係する画像たちを、次のリンク先に置いておきましたので、ぜひご覧ください（Wordファイル） https://x.gd/cnNQC

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布や学生側からの情報の提示など、さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppii等）で行ないます。そのため、スマートフォンやタブレット、できればノートパソコンのような、情報端末が必要です。

【その他の重要事項】
※国際文化学部をはじめとする法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。
※千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
※この「フランス語圏の文化Ⅰ（思想）」における使用言語は日本語ですが、文化や社会にかんする内容を扱い、かつ、フランス語の学習を主な目的とする科目に「時事フランス語Ⅰ」(https://x.gd/pdJmh)「時事フランス語Ⅱ」(https://x.gd/Eqqfz) があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。
※現代のヨーロッパ、特にその移民社会としての側面に、興味・関心のある方は、サマーセッションで開講される「教養ゼミⅠ『移民社会』入門～見える国境と見えない国境～（８月上旬）」(https://x.gd/bp4JW) やオータムセッションで開講される「教養ゼミⅡ『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～（９月中旬）」(https://x.gd/benIb) をぜひ履修しましょう。人物や映像作品を軸に、各学部・学科の専門課程で学ぶのとは異なる視点から、いわゆる社会人の教養として求められる、現代の政治・社会・文化にかんする学びを、初学者が体験できるコースになっています。
※国際文化学部の学生で、ヨーロッパの文化的な側面に関心がある方は、大学院国際文化研究科で水２限に開講されている「多言語社会論A」(https://x.gd/RI11D)「多言語社会論B」(https://x.gd/IYbfj) を履修できます。2025年度は「青の政治学」がテーマです。「青」という色を導きの糸として、言語だけでなく、美術やファッションをふくめた、ヨーロッパ地域における文化と社会のかかわりについて見ていきます。

【Outline (in English)】
[Course outline]

This course offers students an introduction to 17th century French thought, highlighting links with literature, theater, architecture, and science. Students will read excerpts of texts and view films and paintings to get an idea of this historical period that the French often call "The Great Century" (Grand siècle). The 17th century was "great" not only because the Kingdom of France was at the peak of its power under the reign of Louis XIV, but also because philosophers like Blaise Pascal made insightful observations about the tragic nature of the human condition ("Man is only a reed, the weakest in nature; but he is a reed that thinks."). Proficiency in French is not required for this course but written assignments and oral participations in Japanese will be required.
[Learning Objectives]
1. Gain an overview of representative works of French thought and culture of the 16th and 17th centuries through the reading of the texts in each session.
2. Foster the ability to identify, without stereotyping, the themes contained in the characters and works of each text.
3. Develop each student's own ideas about the relationship between power and justice, and between religious fanaticism and violence.
[Learning activities outside of classroom]
(a) No preparation is required.
(b) Students may be asked to write comments on the class.
(c) Students who wish to contribute topics related to the class content other than (b) will receive points for their active participation. Please paste the text or link to the designated LMS (Learning Support System-Hoppii's Discussion Board or Google Classroom's Stream ＞ Comments).
(d) The study time required for preparation and review of this class will be the time needed to study the materials and videos presented and to do (b) and (c) above. Since this is a class for diverse students with different proficiency levels in Japanese and other languages, a uniform length of time will not be specified, but in accordance with the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each 2 credit lecture and seminar should be at least 4 hours per session.
［Grading Criteria］
(a) Final Examination: Not conducted (0%)
(b) Final Report: Not conducted (0%)
(c) Submission and Quality of Comment Sheets (80%)
Each submission is graded on a 10-point scale per session. Comment sheets must be submitted via the Learning Support System ＞ Test/Survey function by 9:00 a.m. on the Saturday of the same week.
(d) Class Participation (20%)
The evaluation method may vary depending on the number of participants. For example, students may be asked to fill in a seating chart.
(e) Others (e.g., student-led topic presentations, cooperation in class management, pointing out instructor's errors)
An additional 5 – 20%may be awarded beyond the combined total of (c) and (d), which accounts for 100%of the base grade.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）

岡村　民夫

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　|　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代フランスの絵画・写真・映画の歴史を概観し、芸術的・社会的な意義を学びます。

【到達目標】
エポック・メイキンギな芸術家や流派、作品の名前などを覚え、その歴史的意義や社会背景を説明できるようになります。鑑賞力もアップします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義と関連作品の鑑賞・分析を交互に行います。
コメントシートに関するフィードバックは授業内やhoppiiで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義のオリエンテーション
第2回	フランス古典主義	ヴェルサイユ宮殿 ロラン プッサン
第3回	新古典主義とロマン主義	ダヴィッド、アングル ドラクロワ
第4回	近代絵画のはじまり	写真の普及 写実主義 マネとボードレール
第5回	印象主義	モネ、ルノワール、ロダン
第6回	ポスト印象主義	スーラ、ゴーギャン、ゴッホ、セザンヌ
第7回	映画の誕生	リュミエール兄弟、メリエス
第8回	アヴァンギャルド1（キュビスム、フォーヴィスム、機能主義）	-ピカソとマチス -ドローネーの抽象絵画 -ル・コルビュジエの建築
第9回	アヴァンギャルド2（ダダイスム、シュルレアリスム）	-デュシャン -エルンスト、ダリ
第10回	エコール・ド・パリと詩的レアリスム	-ユトリロ、藤田 -カルネ、ジャン・ルノワール
第11回	パリ写真	-アジェ、ブラッサイ、カルチエ=ブレッソン
第12回	ヌーヴェル・ヴァーグ	-トリュフォー、ゴダール
第13回	補遺	これまで取り上げられなかった重要芸術家 期末試験の説明
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布される資料を授業後によく読み復習すること。講義対象になった映画を自分で鑑賞することが望ましい。途中で、国立西洋美術館（上野）の常設展（無料）の観賞ミニ・レポートを課します。
本授業の復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントで代用します。

【参考書】
中条省平『フランス映画史の誘惑』集英社新書
そのほかは随時挙げます。

【成績評価の方法と基準】
コメントシートやミニ・レポートによる平常点（50％）＋期末試験（50％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
国立西洋美術館（上野）の常設展（無料）の観賞ミニ・レポートを課す。

【Outline (in English)】
【Course outline】We take a general view of history of French fine art, photography and movie.
【Leaning Objectives】The aim of this course are to know the outline of history of Morden French Arts, and to have an appreciation of great works.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hours for a class.
【Grading Criteria/Policies】Your overall grade in this class will be decided based on the following:
Term-end examination(50%), In-class contribution (50%)

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松　勲

配当年次／単位：**1〜4年／２単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。
本授業は、北米のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとして、オムニバス形式で、各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会を学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説・検討することを主たる目的とする。
なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の通りである。
①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。
具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の数回の授業（3回程度）では、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（11回程度）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。
なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・イントロダクション：フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第2回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第3回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第4回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第5回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴状況を当事者から学ぶ
第6回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第7回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第8回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第9回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第10回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第11回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。
第12回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。
第13回	ケベック州の文化③	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。
第14回	総括	・本授業の全体のまとめ ・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回の授業をより深く理解するために、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州（やカナダ）に関する情報を集めてほしい。
・期末レポート執筆のために、配布資料についても熟読してほしい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】
・各分野の参考書は、各授業において提示する。
・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための56章【第2版】』エリアスタディーズ・72巻，明石書店，2023年.

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）：40％
②期末レポート：60％
・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・14回という少ない回数だが、授業内容について、可能な限り多様になるよう心がける。
・質疑応答の時間を、可能な限り長く設けるようにする。

【その他の重要事項】
・第一回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席してほしいです。
・毎年度秋学期に開講予定の授業ですが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありえます。

【Outline (in English)】
This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.
The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of Quebec.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contributions (discussion, reaction paper, etc): 40%, term-end report: 60%.

ARSa400GA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 400）

地域協力・統合

大中　一彌

配当年次／単位：**2〜4年／２単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。授業を紹介するショート動画をご覧ください https://youtube.com/shorts/iaK97j-Q6ss 学内には他にもヨーロッパ関連の科目がありますが、これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足をおきつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】
①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニスムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・この科目「地域協力・統合」は、前年度までの一部学生の要望を受け、2025年度は全面オンラインで実施します。
・授業時間（100分）の前半80分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（50-60分）にあてています。
・授業時間（100分）の後半20分程度を、グループディスカッションにあてています。
・毎回の授業資料はGoogle Classroomや学習支援システム-Hoppiiをつうじて事前に配布しています。
・学習支援システム-Hoppiiを利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
・基本的にリアルタイム・オンラインですが、授業内容の録画を、受講者の個人情報の保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ペンらに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 小テストが宿題として出されます（ネット上で受験）
2. 本学学則基準によると、講義や演習で２単位を得るのに必要な予習・復習の時間は１回につき４時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】
教科書を買う必要はありません。学習支援システム-Hoppii や Google Classroom上でPDFファイル等のかたちで資料を配布します。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
●１．期末テストは行いません　0%
●２．出席はとりません　0%
●３．小テストの受験【インターネット上において授業時間外に受験するため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます（※１）】61%
●４．グループ・ディスカッション＆学生間の共働【グループ・ディスカッションへの参加や、提出する文章の内容のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等（※２）】25%
●５．この科目を履修している学生や履修を検討している学生に対する、この科目の授業内容に関連した動画の提供やプレゼンテーション【あくまで希望者のみ提出です】14%
●６．運営への協力【協力してくれた方に加点しています：たとえば配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。授業参加者間の連絡や情報共有に積極的に取り組んでくれたといった形の運営協力が加点の対象】（※３）
（※１）小テストは授業の復習であり、授業で配るスライドやプリントをみれば、簡単に答えられるやさしい内容です。
（※２）グループ・ディスカッションは、参加者数によりますが、このシラバスを執筆している時点では、Zoomを用いておこなうことを想定しています。Zoomに接続し、他の学生と共に議論に参加していたことがグループが提出した成果物に記載されていれば、確実に加点されます。小テストの得点に上乗せしたい、単位がどうしても必要という学生さんは、ぜひグループ・ディスカッションに継続的に参加しましょう。
（※３）６．は、１．〜５．の合計100%には含めず、その外枠で5%程度まで加算する。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。

・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください（Wordファイル）https://x.gd/vqmNu

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline)】
What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a “continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.
【到達目標（Learning Objectives)】
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
6) Argueing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom)】
1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy)】
Based on the following grading methods, students who have achieved at least 60%of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class (C minus or better on a letter grade basis).
1. No final exam will be given. 0%.
2. Attendance will not be taken 0%.
3. Quiz Examination [All students, regardless of their campus affiliation, including athletics and job-seeking students, can take the quiz online because of the use of Hoppii] 61%.
4. Group discussion and collaboration among students [Participation in group discussions, group discussion on Google Classroom, and sending the results to instructors, etc.] 25%.
5. End-of-term report (to be submitted only by those who wish to do so): 14%.

SSS300HA（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300）

災害政策論

中川　和之

配当年次／単位：2〜4年／２単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
備考（履修条件等）：環ｺｱ：ロ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈Ｓ〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、法制度以前の自然環境を利用するための約束事や、災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。
そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】
①災害とは何かを、実例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展の経緯、残る課題を理解する。③非日常を前提には生きていない人々の暮らしと、今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出し、今後の社会での実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回短いレポートとしてWebClassで提出する。次の授業の冒頭にレポート内容を振り返り、問題意識を共有して進める。1回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。課題提出後の授業、またはWebClassで提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？　災害から守るべきこととは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の実体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。
第2回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科１	地球の46億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを、具体的な地震の事例などを元に押さえる。授業中に、学生の出身地や身近な場所についての簡単なワークシートに記入する。
第3回	身近な景観と災害＝理科２	前回の授業課題で作成したワークシートを元に、学生同士で相互プレゼンを行い、グループで語りあうことから始める。授業では、さまざまなWebGISの地図から、どのようなことが読み解けるかを知る。ＧＷ期間中に取り組む、地元の土地の成り立ちを知るレポートの課題についての説明も行う。この課題は、最後のレポートにも必須となる。
第4回	３つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災前まで	歴史時代以前からの人類と災害の付き合いから、江戸時代、明治時代、大正昭和と日本列島の災害史とともに、対策について振り返る。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と1995年の阪神大震災の直前までを取り上げる。
第5回	３つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災とその後	日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。
第6回	３つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災	東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういう備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。
第7回	東日本大震災後の災害政策の今＝これからの備え＝「己」がどこまで分かった政策なのかを考える	南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させせられる可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の大改正など、災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何か、災害を想定した私権制限はどこまで許容されるのかなどを考える。

第8回	近年の火山噴火災害から、課題を考える	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。
第9回	近年の地震災害から、課題を考える	2024年能登半島地震、令和4年福島県沖の地震、2019年山形県沖地震、2018年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016年熊本地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2度の震度7に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に具体的に考える。
第10回	近年の風水害から、課題を考える	地震の後の豪雨という複合災害となった奥能登、令和4年台風第8号、令和2年7月豪雨、2020年7月豪雨や台風10号、2019年台風15号や19号(東日本台風)、2018年西日本豪雨や台風21号、2017年九州北部豪雨や2016年台風10号、2015年9月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。
第11回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNSなどの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。最終講義での試験に必要な「地域防災計画の課題発見」レポートについても説明を行う。
第12回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害を前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。
第13回	災害と恵み・防災教育・ジオパーク	自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ることで、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
第14回	試験レポート	「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホやPC、何でも持ち込んでもＯＫ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。期間中にあった災害についても授業内で取り上げていく。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートを、WebClassも活用して提出が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。課題レポートでは学生自身でのフィールドワークも推奨される。

【テキスト（教科書）】
授業で使うプレゼン資料は、毎回の授業前、WebClassに掲載する。

【参考書】
授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。

【成績評価の方法と基準】
平常評価（WebClassでのテスト・アンケートを使った小レポートで授業内容の理解を評価）40％、授業中の課題ワークシート・レポート評価20％、期末試験（試験レポート）評価40％。

【学生の意見等からの気づき】
災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施するほか、学生同士でのディスカッションの時間を持ちたい。また毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。

【学生が準備すべき機器他】
WebClassの利用は必須。講義室でPCやスマホを使って、その場でWebClassからの小リポートの提出を求める。試験課題などもWebClassを利用する。

【その他の重要事項】
試験レポートの作成時には、時間内であればどういう資料を参考に書いても良い。

【実務経験のある教員による授業】
通信社記者として、1984年の長野県西部地震や1995年の阪神大震災などを取材。2005年から2011年まで主に自治体の防災施策を支援するメディアの「防災リスクマネジメントWeb」編集長。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与した以降、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組む。現在は内閣府の「TEAM防災ジャパン」のアドバイザー。子どもたちと地震や火山を学ぶワークキャンプを、地震学会として20世紀から実践。災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を10年以上担当。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster.
2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree.
3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.
【Learning Objectives】
1. Understand what a disaster is by learning from actual examples.
2. Understand the background and development of current policies and the remaining issues.
To think about the ideal form of national and local disaster policies in the future.
4. To discover how to apply their own expertise as a party in Japan, a disaster-prone country, and put it into practice in society in the future.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to review the materials introduced in each lecture and prepare for the next week's topic using the Internet and related materials. As you take this class, I would like you to be interested in information and news related to disasters on a daily basis. Disasters that occurred during this period will also be discussed in class. Outside of class time, students will be asked to submit worksheets and reports related to disasters in their respective regions using the learning support system. The estimated time for preparation and review for this class is 2 hours each. In addition, it is recommended that students conduct their own fieldwork for the assigned reports.
【Grading Criteria /Policy】
Normal evaluation (evaluation of understanding of class content through tests and reaction papers on the learning support system): 40%, worksheets and reports for in-class assignments: 20%, final exam (exam report): 40%.

PHL200HA（哲学 / Philosophy 200）

環境倫理学Ⅰ

竹中　真也

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：環ｺｱ：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境倫理学は1970年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では1990年代に始まった若い分野である。本講義では環境倫理学の全体像とともに、各分野を概観する。受講者はそれを通して倫理学的なアプローチの特色を学ぶことにもなる。

【到達目標】
環境倫理学の多様な主題、具体的中身を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面	人新世と環境倫理学	現在の時代状況とともに、環境倫理学を概観する。
対面	功利主義	功利主義の基本的な用語、発想をおさえる。
対面	義務論	義務論の基本的な用語と、発想をおさえる
対面	徳倫理	徳倫理の基本的な用語と発想を押さえる
対面	世代間倫理	世代間倫理がいかなるものかを知り、問題を考える。
対面	環境正義	環境正義の由来、その意味を理解し、現実の問題に取り組む。
対面	気候正義	気候正義の問題から、温暖化の問題について考える。
対面	人口と環境	人口増大から生じる、経済格差と平等の問題を考える。
対面	風景	空間でなく、場所がもつ意味、風土とのかかわりを概観する。
対面	食農倫理	食農において何が問題になっているかを押さえ、その取り組みを知る。
対面	土地倫理	土地倫理がいかなるもので、その由来がどこにあるかを知る。
対面	都市の環境倫理	都市と自然の関係を再考する。
対面	エコツーリズムと環境倫理	観光と自然環境と文化の関係について考察する。
対面	全体の総括	これまでの議論を整理し、綜合的な視点でとらえかえす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学　3STEPシリーズ』昭和堂、2020年

【参考書】
吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年
吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年
その他の参考書は、そのつど授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の課題）３０％と、学期末の課題７０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマートフォンなど情報電子機器。

【その他の重要事項】
ディスカッションの時間を設けるので、積極的に議論に参加してください。

【Outline (in English)】
This course deals with environmental ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, Usual performance score: 30%, term-end examination:70%.

TRS200HA（観光学 / Tourism Studies 200）

環境表象論Ⅰ

梶　裕史

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業/Spring**　｜　曜日・時限：**火3/Tue.3**
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：ロ,文**

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にどう捉えるか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。
「文化的景観」は、地域の特色ある地理的・歴史的環境と密接に関わる生業・生活文化の「表象」です。ユネスコが世界遺産の幅を広げるために1992年に登録基準として追加して以降、新しい文化遺産の考え方として普及が始まった概念で、わが国も2005年に新文化財として文化財保護法に採り入れています。「自然と人間の共同作品」とユネスコが定義するこの概念は、地域固有の風土・歴史に適応して形成された伝統的な生活・生業（農林水産業や鉱工業）を表わす景観の持続可能性を尊びます。有形を支える無形要素や「五感」で感受される要素も重視し、過去の一点の姿に捉われず「有機的に進化する」見通しを前提に、地域の特色ある生活文化資産を今後にどのように活かし、継承するかという将来像まで視野に入れた、環境共生志向の持続可能な地域形成・人間形成に寄与する考え方であるといえます。授業では主として国内の事例を紹介し、関連する取り組みとして日本型エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等もとりあげます。

【到達目標】
・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できる。
・「景観」は見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながることが多いということに気付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることがメインではないと思って下さい。
一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「景観」とは何か　導入的説明
第2回	ユネスコの「世界遺産」事業概説（「文化的景観」導入の経緯）	併せて国内の世界遺産を紹介
第3回	ユネスコの「世界遺産」概説　その２	前回の補充（授業テーマに関連する海外の世界遺産紹介など）
第4回	文化財保護法の既存の文化財との比較（１）	日本の文化財の種類、内容
第5回	文化財保護法の既存の文化財との比較（２）	「環境」、持続可能性重視の潮流のなかで
第6回	文化的景観の多面的効用（１）	国土の自然環境保全、食料自給率の改善、生態系保全等
第7回	文化的景観の多面的効用（２）	エコツーリズム、グリーンツーリズム、エコミュージアムの素材／「原風景」
第8回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（１）	重要文化的景観第1号のまちの市民活動の歴史、特色
第9回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（２）	六次産業創出ほか、新たなとりくみと「有機的に進化する景観」
第10回	精神文化と一体の景観（１）	熊野三山（世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」）
第11回	精神文化と一体の景観（２）	沖縄の御嶽、富士山
第12回	精神文化と一体の景観（３）	童話・映画・アニメの名作の舞台：「フィルムツーリズム」との関連
第13回	精神文化と一体の景観（４）	古典文芸が創った名所の例として、松島・鞆の浦
第14回	総集編	初回〜13回の授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
不要。学習支援システムに掲載する毎回のスライド教材をもって替えます。

【参考書】
梶裕史「『文化的景観』の特質と可能性」（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』［第2版］第Ⅰ部第６章、ミネルヴァ書房、2021)ほか、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末筆記試験60％、毎回の小テスト40％。小テストを1回も受けていないと、期末試験を受けても満点でない限りは単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】
オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習できることへの評価や、画像や動画が豊富で親しみやすく、興味を惹かれる（実際に行ってみたくなる）といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・日本の伝統文化をサスティナビリティーの視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。

【関連の深いコース】
人間・文化コース、ローカル・サスティナビリティコースと深く関連します。履修の手引きの「コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】
This lecture will introduce an example of the environmental symbiosis type of regional initiatives and human character building , from "cultural" viewpoint. "Representation" is an image that is tied in the mind. It would be good to think that environmental representation is how humans grasp the environment surrounding them in their minds. In the lesson, I will take up the idea of "cultural landscape" as its own theme, introduce concrete examples mainly in Japan, and consider the rich possibilities.
Goal
・ This lecture aims to help students to understand that "cultural landscape" is a new concept suitable for the century of "environment", which is different from the conventional way of thinking of cultural properties.

・ This lecture also aims to help students to realize that "landscape" is not just about appearance, and that things that seem to have little to do with "environment" often lead to ecological issues.
Work to be done outside of class
Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.
We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Grading criteria
Final exam 60%, each quiz 40%

TRS300HA（観光学 / Tourism Studies 300）

環境表象論Ⅱ

梶　裕史

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　|　曜日・時限：**火3/Tue.3**
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：ロ,文**

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：「生きて変化する文化財」／「五感」が形づくる表象・風景：
「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、まずその最大の特色ともいえる「有機的に進化する景観」の意味を、具体例とともに考察します。続いて、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象（＝心の中に結ばれる像）の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】
・「有機的に進化する景観」の意味を理解できる
・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ）を理解できる。
・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではない要素もかなり重要であること）を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることがメインではないと思って下さい。
一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／季節の周期変化と文化的景観	「環境表象論Ⅰ」の概要／循環する自然に即した生活文化の遺産
第2回	有機的に進化する景観（1）	ユネスコの定義の意味／、「観光文化」／四万十川の事例
第3回	有機的に進化する景観（2）—うつぐみの島・竹富島（前編）	景観の有形部分の真正性
第4回	有機的に進化する景観（3）—うつぐみの島・竹富島（後編1）	景観の有形部分を支える無形文化の厚み（伝統祭事等）
第5回	有機的に進化する景観（4）—うつぐみの島・竹富島（後編2）	島の子供からみる文化継承、持続可能な「観光」のとりくみと課題
第6回	伝統継承の階層的発想、無形文化尊重の潮流	「文化財」概念の進化に関する日本人の好適性
第7回	「五感」のエコロジーと文化的景観（前）	「五感」の視点の概説、視覚・聴覚・嗅覚の事例
第8回	「五感」のエコロジーと文化的景観（後）	触覚、味覚の事例
第9回	光と影・闇（前）	「光環境」という視点、夜の灯りに関するとりくみ事例
第10回	光と影・闇（後）	伝統文化における「闇・影」、星空、エコの視点からの重要性
第11回	音風景とは何か	サウンドスケープの概念、日本人の「風景を聴く」伝統
第12回	「残したい日本の音風景100選」から（1）	「自然・生き物」の音風景と伝統文化
第13回	「残したい日本の音風景100選」から（2）	伝統的な生業に関わる音風景その他
第14回	総括—人間の「身体性」（内なる環境）重視と感覚環境のまちづくり	環境表象論Ⅰのポイントも含めたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
不要。学習支援システムに毎回アップするスライド教材をもって替えます。

【参考書】
梶裕史「『文化的景観』の特質と可能性」（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』（第2版）第Ⅰ部第6章、ミネルヴァ書房、2021)ほか、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（教室筆記）60％、毎回の小テスト40％。小テストを1回も受けていない場合は、学期末試験を受けても単位取得できません。

【学生の意見等からの気づき】
環境表象論Ⅰとほぼ同様で、オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習できることへの評価や、画像や動画が豊富で親しみやすく、紹介された場所に実際に行ってみたくなる、といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表像論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】
環境表象論Ⅰと同様、人間・文化コースおよびローカル・サステイナビリティコースに深く関連します。

【Outline (in English)】
Theme: "Cultural assets that live and change" / Representations and landscapes formed by the "five senses"
For the purpose of supplementing the "cultural landscape" theory of "environmental representation theory I", we will first consider the meaning of "organically evolving landscape", which can be said to be its greatest feature, with concrete examples. Next, various aspects of the collective representation of the region beyond the individual (= the image connected in the heart), which is mainly formed by the fusion of the "five senses", and the human formation and regional formation of the environmental symbiosis type. We will consider the possibility of contributing to.
Goal
・This lecture aims to help students to understand the meaning of "organically evolving landscape"
・ This lecture also aims to help students to understand that it is effective not to distinguish the "five senses" separately, but to regard them as a sense of fusion of interactions (in other words, the importance of actual experience in the field in a "visually-oriented society").
・ It is understandable that "rich senses" does not mean only comfortable things (comfortable and unconvenient elements are also quite important).

Work to be done outside of class
Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.
We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Grading criteria
mid-term exam ＆ final exam 65%, each quiz 35%

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅰ

藤倉　良

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業/Spring**　｜　曜日・時限：**木5/Thu.5**
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：サ**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。
・大気汚染（ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
・上下水道の構造と処理のプロセス
・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
・土壌汚染（原因、対策技術）
・廃棄物（法律上の定義と現状）
・リサイクル（意義と現状）
・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）
・環境アセスメント（法制度、具体例）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。
講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。
毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第2回	大気汚染・その１（第1章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫黄酸化物
第3回	大気汚染・その２（第1章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第4回	上水道（第2章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第5回	下水道と浄化槽（第2章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第6回	水質汚濁（第3章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第7回	工場排水と土壌汚染（第3章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第8回	悪臭（第4章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第9回	騒音（第4章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第10回	廃棄物・その１（第5章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第11回	廃棄物・その２（第5章）	産業廃棄物
第12回	リサイクル・（第5章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第13回	有害物質とリスク、基準の決め方（第6章）	有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方
第14回	環境アセスメント（第12章）	法制度、手続き、事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。
授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門』　有斐閣コンパクト

【参考書】
藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？　人間環境論集，第１６巻，第１号，pp.71-85

【成績評価の方法と基準】
毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30％、授業の最終回に行う期末試験70％です。

【学生の意見等からの気づき】
中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】
とくにありません。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】
Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this lecture, students will acquire the basic engineering knowledge of mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances (this is learning objectives). Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken upon submission of the quiz. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅱ

藤倉　良

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**土1/Sat.1**
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：サ**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。
・人口増加のパターンと要因
・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
・気候変動をめぐる社会と政策
・プラスチックごみ対策
・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。
講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。
毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国際環境政策の難しさ、条約と議定書
第2回	人口	人口増加のメカニズム、都市人口
第3回	オゾン層・1（第7章）	紫外線、フロンガス
第4回	オゾン層・2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第5回	気候変動・1（第8章）	ＩＰＣＣ、気候変動の科学
第6回	気候変動・2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第7回	気候変動・3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第8回	気候変動・4（第8章）	エネルギー資源
第9回	気候変動・5（第8章）	緩和策
第10回	気候変動・6（第8章）	適応策
第11回	気候変動・7（第8章）	気候安全保障
第12回	プラスチックごみ問題	プラスチックの性質、日本の政策
第13回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。
授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門』　有斐閣コンパクト

【参考書】
講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業後の小テストによる出席(30%)と授業内に実施する期末試験（70%）で行います。

【学生の意見等からの気づき】
中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】
Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this course, students will learn the basic science behind the mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone depletion, and acid rain. Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time and attendance will be taken after the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅲ

藤倉　良

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業/Spring**　｜　曜日・時限：**土1/Sat.1**
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：サ**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。
・資源の意味
・淡水
・エネルギー
・土壌とリン、窒素
・遺伝資源
・金属資源

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。
講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。
毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第9回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第12回	遺伝資源	食料、医薬品
第13回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回Hoppiiで配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第15巻第2号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】
毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30％、授業内に実施する期末試験70％です。

【学生の意見等からの気づき】
図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に関わりました。その経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】
This course includes an explanation of the importance of resources, freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, base metals and rare earths. Students will acquire basic knowledge about the importance of resources, the scientific nature of resources, and the prospects for their use. Major topics include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals. Your study time will be more than four hours for a class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken when the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境管理論Ⅰ

大野　香代

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業/Spring**　|　曜日・時限：**金5/Fri.5**
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：経,サ**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
近年、PFAS（ペルフルオロアルキル化合物）に代表される残留性有機化合物やマイクロプラスチックによる水質汚染が国際的に注目されている。気候変動による豪雨や淡水の枯渇により利用できる水が減少しており、水危機の時代ともいわれている。人間は水が無いと生きていけないが、我々が日々安全で安心な水を利用するためには水源である河川や地下水を汚染しないことが重要である。日本は1960年代に水俣病に代表されるような甚大な産業公害を経験し、現在は水質保全のための法律が整備され、工場による法順守が徹底されることで公害防止が行われている。本講座では水質保全のために企業が行うべき水環境管理について学ぶ。具体的には、水質汚濁防止に関する法律、水質汚染の現状と発生源、水質汚染機構と健康影響、水の浄化技術と水質測定について学ぶ。

【到達目標】
水質汚濁防止に関連する法律や工場内における公害防止管理者の役割について理解する。工場から排出される汚染物質の種類とその処理方法について理解する。具体的には水質を管理するための指標となるＢＯＤ、ＣＯＤ、ＳＳ等の専門用語、凝集沈殿処理、活性汚泥法等の水処理の基本的技術の概要を理解する。実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルを養う。公害防止管理者国家試験の問題を解く訓練を行い、授業終段階では、水質概論及び汚水処理特論の問題を6割程度正解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
公害防止管理者試験水質１種及び2種に出題される問題が解けるレベルの水質概論、汚水処理技術及び質測定の知識を効率的に取得するため、毎回、講師の作成したパワーポイントを用いて要点を絞った講義を行う。講義内で公害防止管理者国家試験の過去問題に挑戦することで、出題傾向を知り、解答テクニックを取得する。
授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	公害の歴史と公害防止管理者の役割	日本の環境問題の変遷と公害防止管理者法について学ぶ。
2	水質汚濁の発生源、汚濁機構、環境影響	水質汚濁の発生源と富栄養化、赤潮発生、生物濃縮、地下水汚染等の環境影響について学ぶ。
3	水質汚濁に関連する法律	環境基本法及び水質汚濁防止法について学ぶ。
4	演習１公害防止管理者試験の演習	公害防止管理者試験の過去問題（水質概論の範囲）の演習を行う。出題傾向と対策について講義する。
5	汚水処理を学ぶための基礎知識	BOD、COD等の用語定義を学び、溶解度、酸とアルカリ、酸化還元、化学反応、錯体とキレート等の化学の基礎を復習する。
6	汚水処理１　排水処理計画、沈降分離	工場における水利用の考え方について学ぶ、排水の基本処理である沈殿分離にすいて理解する。
7	汚水処理2　凝集分離と浮上分離	凝集分離及び浮上分離の原理と装置構成を学ぶ。
8	汚水処理3　ろ過分離、化学処理	砂ろ過の機構、中和、酸化還元、活性炭吸着等の各種物理・化学処理にっつい て学ぶ。
9	汚水処理4　生物処理法（活性汚泥法）	生物処理法の概要、活性汚泥法の原理や装置について学ぶ。
10	汚水処理5　生物処理法（嫌気処理法）	嫌気処理法の原理や装置について学ぶ。
11	汚水処理6　窒素及びりんの処理、汚泥の脱水	生物処理による脱硝脱窒方法およびりん除去技術、汚泥の脱水技術について学ぶ。
12	演習２　公害防止管理者試験の演習	公害防止管理者試験の過去問題（汚水処理技術の範囲）の演習を行う。出題傾向と対策について講義する。
13	水質測定	公害防止管理者試験に出題される、BOD及びCOD等の水質測定項目に的を絞り学ぶ。
14	期末テスト	本講座で学んだ、法律および排水処理、水質測定に関連する問題に関する理解度を確認するテストを行う。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義で配布するパワーポイントを講義前に学習支援システムにアップするので、ダウンロードして予習する。「新・公害防止技術と法規（水質編)」のテキストで講義に関連する箇所を予習、復習する。授業の予習は１時間、復習も2時間程度行うこと。

【テキスト（教科書)】
基本的に講義毎にパワーポイントの資料を配布する。

【参考書】
新・公害防止の技術と法規（水質編）　（一社）産業環境管理協会出版

【成績評価の方法と基準】
２回の演習の講義で小テストを行う。その点数を各20点満点とする。期末テストは60点満点とする。課題と期末テストの合計（100点満点）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
排水処理技術は化学式や計算が多く出てくるため、ゼロベースの学生にも分かりやすく、基礎から教えるよう心掛ける。講義内で化学の基礎知識についても適宜、復習する。文系の学生にも興味を持ってもらえるよう、近年の水質汚染が社会に与える影響なども交えて講義を行う。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
講師は中国及びタイ、カンボジア、ミャンマー、カンボジア等の東南アジアにおいて、公害防止管理者制度及び公害防止技術の移転事業に18年携わっており、さらに、水質測定の日本産業標準規格（JIS）及びISO（国際標準化機構）にて水質測定関連の規格開発を長年行っている。これらの経験を活かし、学生には、国内だけでなく、国際的視点で水質汚濁問題をとらえるような講義を行う。関連資格は公害防止管理者資格（水質)、関連する科目は環境法規、環境ビジネスなどである。

【Outline (in English)】

In recent years, water pollution by persistent organic compounds represented such as PFAS (perfluoroalkyl compounds) and microplastics has attracted international attention. Heavy rainfall and the depletion of fresh water due to climate change have reduced the amount of available water, and we are said to be in an era of water crisis. Humans cannot live without water, but in order for us to use safe and secure water on a daily basis, it is important not to pollute rivers and groundwater, which are the sources of water. Japan experienced enormous industrial pollution in the 1960s, as exemplified by Minamata disease, and now laws have been established to protect water quality, and pollution is being prevented through thorough compliance with the law by factories. In this course, students learn about water environment management that companies should implement to protect water quality. Specifically, students learn about laws related to water pollution control, the current status and sources of water pollution, water pollution mechanisms and health effects, water purification techniques, and water quality measurement.

The evaluation for this course is as follows: Students should perform 2 kinds of report assignments. Submission of the assignment can be worth a maximum of 20 points per assignment. If they submit the assignment reports twice, they will be worth a maximum of 40 points. The final exam is worth a maximum of 60 points. The grade will be based on the sum of the assignments and the final exam.You should spend about one hour preparing for class and two hours reviewing.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境管理論Ⅱ

大野　香代

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
開講セメスター：**春学期授業/Spring**　｜　曜日・時限：**金3/Fri.3**
備考（履修条件等）：**環コア：経, サ**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境管理論Ⅱでは、企業の生産活動により排出される大気汚染物質を抑制、
管理するための関連法令や技術について学びます。国際的に脱炭素社会への変換が進む中、企業のESG（環境、社会、ガバナンス）への取組が益々重要視されてきています。企業は大気、水質、土壌の汚染防止、騒音振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。
　本講義では、大気汚染問題の原因や課題について、地球温暖化問題からPM2.5汚染まで幅広い内容を学びます。大気関連の法律体系や行政施策及び、硫黄酸化物やばいじん等の発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄等、企業における環境管理の基礎的知識を学びます。
公害防止管理者国家資格（大気）の取得を目指す学生にとっても基礎となる知識を取得することができます。

【到達目標】
近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物を発生する各種生産活動、大気汚染物物質の処理方法及び測定方法につて理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週、シラバスに記載されているテーマに関する資料を配布し、講義を行う。2回程度課題を出すので、数名のグループでディスカッションを行い、レポートにまとめ、授業内で発表する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史ついて学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第2回	近年の大気環境問題（その１）	気候変動への国際的な取組やその他の大気環境問題について学ぶ。
第3回	近年の大気環境問題（その２）	国内の大気の状況について、環境基準の達成率やPM2.5及び光化学オキシダント生成、水銀排出等の問題について学ぶ。
第4回	大気保全のための各種法律	大気に関する各種法律の概要（環境基準、排出基準等）を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。
第5回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズム。
第6回	アクティブラーニング 課題１	各業種における大気環境保全のための活動を調査し、その特徴をまとめる。SDGｓの17のゴールとの関連についても考察する。
第7回	燃焼管理技術	カーボンユートラル達成のための新技術について触れながら、日本のエネルギー事情について学ぶ。また、燃料の種類や効率的な燃焼管理及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第8回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第9回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物及びその他の有害物質の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第10回	集じん技術	排ガス中のばいじんや粉じんの除去技術について学ぶ。
第11回	アクティブラーニング 課題２	企業の環境管理に関連する課題を出すので、それについて調査し、考察する。
第12回	大気のモニタリング技術と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリングの方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。
第13回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第14回	期末テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習は事前に配布された資料を読み、分からない用語等は事前に調べ勉強する。復習は講義で勉強した内容を講義資料を中心に復習し、分からなかった部分については、インターネットや関連文献を調査し、理解するようにする。さらに、興味のもったテーマについて、自分なりに調べ、より深く理解するように努める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
新・公害防止の技術と法規　（大気編）の講義に関連するところを読んで学習する。授業の準備学習・復習時間は各2時間とする。

【参考書】
新・公害防止の技術と法規　（大気編）　発行所　（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】
レポート2回の評価　各２０(%)×２　期末テスト６０（%）

【学生の意見等からの気づき】
化学式や数式が出てくると、難しく感じるとの意見が多いので、排ガス処理技術等の説明では、なるべく数式を使用せず、図を多用して視覚的、直観的に原理が理解できるよう、工夫することとする。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で配布した資料

【その他の重要事項】
担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法制度支援を10年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】
Course outline：

Environmental Management II, students learn about the relevant laws and regulations and technologies to manage the air pollutants emitted by corporate production activities.The transformation to a decarbonized society is accelerating. In this situation, ESG (Environmental, Social and Governance) initiatives of corporation are becoming more and more important. In addition to conventional pollution prevention measures such as air, water, and soil pollution control, noise and vibration control, and waste management, companies are now faced with the need to take various measures to reduce emissions of carbon dioxide and other global warming substances.

In this lecture, we will learn about the causes and issues of air pollution problems, ranging from global warming to PM2.5 pollution. In addition, students learn about the legal system and administrative measures related to air quality, as well as the sources of sulfur oxides and soot and dust, and scientific matters related to their treatment technologies and measurement methods.

Students aiming to obtain the national qualification for pollution Control manager (Air) can acquire basic knowledge.

Learning Objectives：

-To understand the causes, countermeasures, and issues regarding recent air pollution problems in Japan and abroad.

-To understand the Basic Environment Law, Air Pollution Control Law, and other air-related regulations and national policies.

-To understand the various production activities that generate air pollutants, and the treatment and measurement methods of air pollutants.

-To investigate the environmental management activities of companies and to think about the issues and measures in each industry.

Learning activities outside of classroom：

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy：

Each Report ：　20(%) × 2 times

Term-end examination: 60 (%)

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

コミュニティ社会論Ⅰ　展開科目

青木　淳弘

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
曜日・時限：**木4/Thu.4**　｜　配当年次：**2〜4年**
その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通しまた異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】
（１）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（２）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本としますが、状況によって、オンライン授業（Zoom）を行う可能性もあります。オンライン授業の場合、Zoomへのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。
講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。
授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。提出されたリアクションペーパーから全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／前近代・近代・現代における家族と絆	授業の到達目標・テーマ、概要・方法揺／生計をともにする者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第2回	前近代・近代・現代における結婚と＜子ども＞の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、＜子ども＞へのまなざしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第3回	性別役割分業の歴史的変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第4回	宗教から見た西欧の歴史的変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第5回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第6回	19世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第7回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第8回	官僚制の歴史的変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第9回	地理的世界の拡大とネットワーキングの変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第10回	時代の変化と少年犯罪のまなざし方の変化	第3回の＜子ども＞の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する
第11回	歴史と社会を見る目（1）	コミュニティの健全性に関するデュルケームの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
第12回	歴史と社会を見る目（2）	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
第13回	歴史と社会を見る目（3）	ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
第14回	まとめ・総括	歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として重要なことは、１回１回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（７０％）、平常点（３０％）。
期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。
平常点については、小レポート、受講態度の状況を基準とします。欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】
身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】
People have always formed communities and lived together, no matter what the era or region. How do the everyday human relationships and social phenomena of people living in the modern era differ from those of other eras and regions? In this lecture, after learning the basic perspectives and ideas of sociology, we will deepen our understanding of each theme through historical and regional comparisons using the methods of comparative sociology.

SOC300MA（社会学 / Sociology 300）

コミュニティ社会論Ⅱ

展開科目

青木　淳弘

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
曜日・時限：**木4/Thu.4**　｜　配当年次：**2025年度以降入学者：3〜42024年度以前入学者：2〜4年**

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本としますが、状況によって、オンライン授業（Zoom）を行う可能性もあります。オンライン授業の場合、Zoomへのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。
講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。
授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。提出されたリアクションペーパーから全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／「最近の子どもは〇〇が問題だ」というまなざし方（社会病理的見方）の歴史を把握する
第2回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第3回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第4回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第5回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第4回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第6回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第7回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第6回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第8回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第9回	社会史的視点（1）	19世紀末から20世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第10回	社会史的視点（2）	20世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第11回	社会史的視点（3）	戦後の流行歌を取り上げ、大衆的生活の様相について理解する
第12回	社会史的視点（4）	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる
第13回	歴史と社会の再生産	第12回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第5回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する
第14回	まとめ・総括	比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として重要なことは、１回１回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（７０％）、平常点（３０％）。
期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。
平常点については、小レポート、受講態度の状況を基準とします。欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】
身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】
interact with the survival and history of society? In this lecture, continuing on from Community and Society I, we will use comparative sociology methods to conduct historical and regional comparisons on each theme, deepening our understanding of communities and human daily life. In Community and Society I, we looked at the larger historical trends, but in this lecture, we will use more recent times as a mirror.

MEC300XB（機械工学 / Mechanical engineering 300）

音響工学

御法川　学

開講時期：**春学期授業/Spring**

その他属性：〈実〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機械から発生する騒音を抑制し、快適な音環境を創出するには、音響に関する基礎の習得が必要である。本講義では、波動現象としての騒音の取扱い、聴覚の特性、騒音の発生、伝搬メカニズム、消音法、測定・評価手法などを概説する。また、騒音防止に関する公的資格試験を見据えた演習を取り入れて実践的理解を深める。

【到達目標】
基本的な騒音の諸量、発生メカニズム、低減法などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、機械力学、流体力学など基礎力学の工学的応用の一つとして、騒音防止を位置付けている。また、環境問題を解決する実践的な技術を習得することを目的とする。実務的な内容を多く含むので、演習問題を解くことによって理解を深めていく。継続的かつ積極的に授業に参加されたい。
提出された課題に対して適宜フィードバックを行うとともに、その後の授業内容に対してそれを反映する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	音響、騒音とは	物理現象としての音波の基礎量、聴覚を前提とした騒音の基礎量について学ぶ。音波は空気の振動であり、時間的に変化しているが、工学上は平均値を用いるのが都合がよく、振動波形の平均化と実効値について学ぶ。
第2回	騒音の基礎的な計算	騒音の大きさを示す基本的な量である、音のパワー、音の強さ、音圧およびそれらの表記法であるレベル（デシベルによる表記）について学び、簡単なデシベルの計算を演習する。
第3回	聴覚と騒音	騒音は物理現象である音波を聴覚の特性を含めた量で表現する。聴覚の特性（音の大きさや周波数の特性）を考慮した騒音レベル、マスキング効果などについて学ぶ。
第4回	騒音の諸量	環境騒音の大きさは時間的に一定ではないことが多いため、変動する騒音の時間平均の方法と評価量である時間率騒音レベル、透過騒音レベルなどについて学び、計算方法を理解する。
第5回	波動現象としての騒音(1)	騒音は工学上は平均値で表すことが多いが、騒音のシミュレーションを精密に行うためには、時間・空間上の音波の表記が必要である。音響伝搬の基礎式である波動方程式の導出を通じて、音圧、粒子速度、音速、インピーダンスといった音響伝搬における基礎量を理解する。
第6回	波動現象としての騒音(2)	1次元の波動方程式の導出を行った後、簡単な条件である1次元ダクト（平面音波）内を伝搬する波動方程式を理論的に解き、境界条件とともに波動の振る舞いを理解する。また、境界条件によって生じる定在波の様子、音波の反射率、透過率について理解する。
第7回	騒音の測定と分析(1)	実用上必須となる騒音レベルの測定および測定器について学ぶ。騒音計の規格、構造と機能について学ぶ。また、騒音測定に使用されるマイクロホンの種類と原理についても学ぶ。
第8回	総合演習	第1回から第7回の内容を演習によって確認する。音圧レベル、騒音レベルの計算、時間率騒音レベル・透過騒音レベルの算出等について、演習により理解を深める。
第9回	騒音の測定と分析(2)	騒音の原因特定や静音化対策において必須である周波数分析法について学ぶ。代表的な分析法であるFFT分析およびオクターブ分析について、原理と特徴について理解する。また、これらの周波数分析器の原理と特性について学ぶ。
第10回	具体的な騒音対策(1)	最も一般的な騒音の伝搬系対策としての吸音、遮音による方法を学ぶ。防音塀による遮音、室内吸音による防音、壁における透過損失について、原理と計算方法を学ぶ。
第11回	具体的な騒音対策(2)	産業機器やプラント機器におけるダクト内を伝搬する騒音の対策法として、消音器による騒音低減法について学ぶ。吸音型、共鳴型、膨張型、アクティブ型などの各種消音法について紹介し、簡単な消音器の設計を通じて理解を深める。
第12回	具体的な騒音対策(3)	ファンやタービンといった流体機械や、自動車や新幹線、航空機といった交通機械から発生する空力騒音（風切り音）について学ぶ。Lighthillの空力音響理論、発生音の特性などについて、簡単な計算を通じて見積もりを行う。また、空力騒音の静音化手法についても触れる。

第13回	快適な音環境を目指して	騒音は聴覚の主観量であり、心理的に適切な評価および対策が有効である。規格化されている騒音の音質評価量であるラウドネスおよびこれをベースにした各種の音質評価指標について触れ、音質向上設計の実例を紹介しながら、これからの騒音対策について展望する。
第14回	総合演習	第9回から第13回の内容について、演習問題により理解を深める。総合透過損失の計算、吸音型消音器の設計、空力騒音の卓越周波数の計算などを行う。また、定期試験に向けた総合的な復習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
音の計算には対数を多用しますので、対数計算を復習のこと。

【テキスト（教科書）】
鈴木昭次ほか著：「機械音響工学」、コロナ社

【参考書】
特にありません

【成績評価の方法と基準】
評価方法：　各演習の回答内容（50％）、期末試験（50％）で評価する。
評価基準：　本科目において設定した達成目標を60％以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
演習を踏まえ、より実践的な理解を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
国内外での企業実務経験、海外大学での研究経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In order to suppress the noise generated from the machine and to create a comfortable sound environment, it is necessary to master the fundamentals related to sound. In this lecture, we will outline the handling of noise as a wave phenomenon, characteristics of auditory sense, occurrence of noise, propagation mechanism, silencing method, measurement and evaluation method. In addition, practical understanding will be deepened by incorporating exercises aiming at public qualification examination on noise prevention.
【Learning Objectives】
Understand basic noise quantities, generation mechanisms, and reduction methods.
【Learning activities outside of classroom】
The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Review of logarithmic calculations, as logarithms are often used in sound calculations.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation method: Each exercise will be evaluated based on the answers (50%) and the final exam (50%).
Evaluation criteria: Students who have achieved 60%or more of the objectives set for this course will pass the course.

MEC400XB（機械工学 / Mechanical engineering 400）

環境工学

西井　啓典

開講時期：**春学期授業/Spring**

その他属性：〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機械工学科の学生の多くは、メーカに就職し、設計業務に携わる。製品設計には環境配慮が欠かせない時代になっている。技術者あるいは社会人として必要な環境関連の知識を得るとともに、その重要性を認識する。また、環境、エネルギー、福祉等は将来的にも重要分野で、社会人として環境に係る基礎知識を身につけることは、今後の人生にとって有意義である。

【到達目標】
1. 典型7公害についての基本事項、防止装置の機械的要素等について理解する。
2. 環境管理、環境影響評価、リサイクル・リユース、ゼロエミッションなどの循環型社会に於ける役割について理解する。
3. 地球温暖化、再生可能エネルギー等について学び、日本のエネルギー基本計画との係りを理解する。
4. 環境問題全般について広く学び、地球環境を維持するため、社会貢献の心を養う。
5.企業における環境関連製品の研究開発、プロジェクトの受注から納入までの流れの事例により実業務の一端を知る。
6.最先端の水質汚濁防止技術の動向に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
資料を配布し、パワーポイントを用いて、環境装置の写真なども見ながら、講義を行い、環境全般について理解してもらう。並行して、技術開発、先端技術など社会の実情をトピックスとして紹介する。提出された課題レポートから幾つか取り上げ講評や解説を行う。適時、質疑によって受講生の疑問にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	環境概論	環境工学の講義内容、進め方、トピックスについて説明する。環境基本法、気候変動枠組条約締約国会議の状況、SDGs等の概要について解説する。
2回	環境問題の歴史と発展	環境問題の変遷について学習し、過去の環境関連事故の事例に学ぶ。なお、トピックスは基本的に毎回、紹介する。
3回	大気汚染	大気汚染の原因、評価、低減装置（脱硫、脱硝、集じん装置）等について学ぶ。
4回	水質汚濁(1)	水質汚濁の変遷、防止対策及び技術の概要について学ぶ。
5回	水質汚濁(2)	水質汚濁の原因、評価、活性汚泥法など水処理技術等について学ぶ。
6回	土壌汚染、地盤沈下	土壌汚染、地盤沈下の原因、評価、防止技術等について学ぶ。
7回	悪臭	悪臭物質の基礎、発生原因と防止技術等について学ぶ。
8回	騒音	騒音の基礎、騒音苦情の実態、評価、防止技術（消音器、防音壁）等について最新技術を交えて学ぶ。
9回	振動	振動苦情の実態、振動の基礎、評価、防止技術（防振、制振、免震、動吸振器）等について学ぶ。
10回	廃棄物	焼却設備など廃棄物処理方法、処分場等について学ぶ。
11回	リサイクル、リユース	循環型社会の形成に必要な、家電・建築・自動車・容器包装などリサイクルの方法・実態、各種リユースについて学ぶ。
12回	地球温暖化、新エネルギー	地球温暖化の原因と防止策、新(再生可能)エネルギー等について学ぶ。
13回	放射能、ゼロエミッション	放射能の基礎、影響、復旧策、ゼロエミッションによる循環型社会の構築等について学ぶ。
14回	環境管理と環境監査、環境影響評価(環境アセスメント)	環境ISO（ISO14001）の考え方と仕組み、環境影響評価(アセスメント)等について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
環境問題は日々、新たな問題が発生している。最新情報を得るためには、新聞やインターネットなど、情報に敏感になることが大切である。
また、身の周りで起こる事象、製品・装置のﾒｶﾆｽﾞﾑ等に疑問を持ち、考える習慣をつけることで、技術的センスが養われ、このことが将来、技術者としての成長につながる。

【テキスト（教科書）】
講義毎に自作の資料を配布、または学習支援システムに資料を添付する。

【参考書】
新公害防止の技術と法規　産業環境管理協会
(大気編、水質編、騒音・振動編など)
環境省、国交省、総務省などの各省、機械学会など各種学会のWeb.
松信八十男　著　地球環境論入門　サイエンス社
福田基一　他著　環境工学概論　培風館
久保田宏　他著　廃棄物工学　培風館

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（５０％）と春学期試験（５０％）を合わせて評価する。100点満点とし、60点以上を合格とする。
課題レポートは環境に関する話題について、現状、問題点、解決方法、自分の考えなどをまとめ（1200字以上)、６月末頃(別途指示)に提出する。
春学期試験は、テーマ毎に出題した中から、春学期試験時に受講者が選択(別途指示)して回答する。
90～100点を S
87～89点を A+
83～86点を A
80～82点を A-
77～79点を B+
73～76点を B
70～72点を B-
67～69点を C+
63～66点を C
60～62点を C-
0～59点を D(不合格)
未受験,採点不能をE(不合格)

【学生の意見等からの気づき】
地球温暖化防止に関連して、持続可能な航空機燃料(SAF)についての講義の要望があった。前年度は概要説明のみとしたが、本年度からはさらに詳細な説明を追加する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
大部分の学生は、卒業すると就職し、夫々の所属先で活躍することになる。人間として、技術者として成長するための心掛けなど、社会人として役立つ情報を紹介したいと考えている。
企業で長年、実業務（技術開発、ライン業務、プロジェクト業務）に携わり、また、豊富な学会活動などに基づいた経験談（事例）、最新技術などを紹介する。

【Outline (in English)】
Outline
Many students of the machinist subject find a job in the maker and are engaged in design duties. It is the times when environmental consideration is indispensable to a product design.　I get necessary environment-related knowledge as an engineer or a member of society and recognize the importance. In addition, it is significant for the future life that environment, energy, the welfare acquire basic knowledge to affect environment as a member of society in the future in an important field.
Learning Objective
1.I understand a basic matter about the model 7 pollution, the mechanical element of the prevention device.
2.I understand a role in recycling society such as environmental management, an environmental assessment, recycling reuse, the zero-emission.
3.　I learn about global warming, renewable energy and understand the Japanese basic engery plan.
4. I develop a heart of the contribution to society to learn about overall environmental problem widely, and to maintain a global environment.
5.I know one end of true duties by the example of flows from the research and development of the environmental product in the company concerned, the order of the large-scale project to the delivery.
6.I know the trend of the advanced technique of the field of sound.
Learning activities outside of classroom
A new problem produces the environmental problem every day.　It is important to become sensitive to a newspaper and information including the Internet to get the latest information.
In addition, I have a question toward a phenomenon to be caused around the body, the mechanism of a product, the device, and a technical sense is fed, and this is connected for the growth as the engineer in the future by touching a custom to think about.
Grading Criteria/Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination : 50%, Short reports : 50%

法政大学
HOSEI University